

Golden Days Abroad Golden Days Abroad



in Derbyshire



～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて ～

第9回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書

2026. 3



目 次

■ はしがき	1
■ ダービーシャー派遣生徒・引率教員・受入家庭名簿	2 - 3
■ 派遣日程・研修等の日程	4
■ 滞在中の当番日記	5 - 12
■ ホストファミリー紹介・派遣を終えて	15 - 44
■ 英語感想文	45 - 53
■ ダービーシャー高校生派遣事業資料	54 - 55

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年にトヨタ自動車株式会社の現地法人が南ダービーシャー市バーナストーン地区に設立されたことをきっかけに交流を開始し、1998年11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のプログラムを通して、豊田市と同校の友好及び相互理解を深め、国際感覚を持った人材を育成することを目的に、2014年度から開始しました。本市ではこれまで、国際交流や多文化共生の推進を、市民一人ひとりが未来を切り拓くための大切な基盤として位置づけてきました。とりわけ若い世代が、異なる文化や価値観に触れ、自らの視野を広げていくことは、これからの社会をより良いものへと導く力になると確信しています。

9回目となる今回の派遣事業では、市内高等学校及び高等専門学校に通う生徒14名を13日間の日程で派遣しました。本報告書には、ダービーシャーの人々との出会いを通じて多様な価値観に触れ、多くの学びを得た生徒たちが、派遣生活の中で新たに芽生えた夢や目標を書き記しています。多くの市民の皆様にご覧いただき、姉妹都市ダービーシャーの魅力、本派遣事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

今日、世界では、国や文化の違いを越えて協力し合うことがますます求められています。また、近年、本市における外国人住民は増加・多国籍化の傾向にあり、地域社会においても様々な文化的背景を持つ人々が暮らしています。派遣生の皆さんには、今回の派遣を通して多様な文化に触れ、言葉や考え方の違いを乗り越えて対話した経験を活かし、今後、本市の国際化を担う存在として、地域における円滑なコミュニケーションや相互理解の促進に貢献していただくことを期待しています。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力を賜りましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を提供してくださったバートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジ、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様にご心から感謝申し上げます。

派遣生徒・受入家庭名簿

氏 名	学校・学年	受入家庭
派遣生徒 古橋 莉乃 Rino Furuhashi	 豊田工業高等専門学校 1年	The Aleshinloye Family
派遣生徒 佐藤 真由香 Mayuka Sato	 豊田西高等学校 2年	The Allen Family
派遣生徒 川合 珠里 Juri Kawai	 豊田東高等学校 2年	The Allen Family
派遣生徒 松崎 柚月 Yuzuki Matsuzaki	 衣台高等学校 2年	The French Family
派遣生徒 坂口 花 Hana Sakaguchi	 猿投農林高等学校 2年	The Hollister Family
派遣生徒 岩附 心結 Miyu Iwatsuki	 松平高等学校 1年	The Ahmed Family
派遣生徒 川瀬 一熙 Itsuki Kawase	 豊田工科高等学校 2年	The Gray Family
派遣生徒 井場 美波 Minami Iba	 足助高等学校 2年	The Henschcliffe Family
派遣生徒 岩屋 美咲 Misaki Iwaya	 豊田北高等学校 1年	The White Family

派遣生徒・受入家庭名簿

氏 名		学校・学年	受 入 家 庭
派遣生徒 鈴木 心菜 Kokona Suzuki		豊田南高等学校 2年	The Henschcliffe Family
派遣生徒 安部 玖美 Kurumi Abe		豊田高等学校 2年	The Aleshinloye Family
派遣生徒 大西 海鷲 Kaiga Onishi		豊野高等学校 1年	The Gray Family
派遣生徒 香川 絢 Aya Kagawa		杜若高等学校 1年	The Mortimer Family
派遣生徒 織田 陵慧 Ryoe Oda		豊田大谷高等学校 2年	The French Family

引率教員・受入家庭名簿

氏 名		勤務先	受 入 家 庭
引率教員 鬼頭 伴明 Tomoaki Kito		豊田東高等学校	The Ortiz Family

派遣日程

令和8年3月13日（金）～25日（水） 13日間

	活 動 内 容
13日（金）	中部国際空港（キャセイパシフィック航空 539便）⇒ 香港国際空港
14日（土）	香港国際空港（キャセイパシフィック航空 219便）⇒ マンチェスター空港 マンチェスター空港（バス）⇒ バートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジ（BSDC） ホームステイ開始
15日（日）	ホストファミリーと交流
16日（月）	オリエンテーション、英語講座、キャンパス・バートン市内散策
17日（火）	英国料理（アフタヌーンティー）体験 クリエイティブ・メディア・ワークショップ
18日（水）	英国トヨタ自動車訪問・バーナストン工場見学 リッチフィールド散策
19日（木）	英語講座、派遣中の体験等まとめ カルチャーショー・豊田市や日本文化等紹介 姉妹都市関係者、ホストファミリー、BSDC 学生・教員等との交流・夕食会
20日（金）	ミュージアム・オブ・メイキング、クロムフォード・ミル見学 ダービーシャー県庁 表敬訪問
21日（土）	ホストファミリーと交流
22日（日）	ホストファミリーと交流
23日（月）	ベルパースクール訪問（授業参加、学生との交流）
24日（火）	BSDC（バス）⇒ マンチェスター空港 マンチェスター空港（キャセイパシフィック航空 216便）⇒ 香港国際空港
25日（水）	香港国際空港（キャセイパシフィック航空 236便）⇒ 中部国際空港

研修等の日程

- 令和7年 6月 6日（金） 派遣生徒選考依頼
- 9月 4日（木） 派遣生徒決定
- 12月 7日（日） 派遣ガイダンス（保護者同伴、派遣日程・渡航説明等）
- 12月 20日（土） 第1回事前研修会
- 令和8年 1月 24日（土） 第2回事前研修会
- 2月 28日（土） 第3回事前研修会
- 3月 27日（金） 帰国報告会（市長・市議会議長出席）

滞在中の当番日記

3月13日（金）～25日（水）

3月13日（金）・14日（土）

渡航 1 日目は、中部国際空港に 12 時 30 分に集合しましたが、フライトが 1 時間ほど遅れました。機内では食事が提供され、ハーゲンダッツをもらえて嬉しかったです。19 時 30 分頃（香港時間）に香港空港に到着し、空港内を少し回った後、ババ抜きなどをして楽しく時間を過ごしました。その後、深夜 1 時にイギリスへ向けて出発しました。離陸後には機内食が提供され、チキンライスを選びましたが辛く感じました。着陸前に軽食も配られ、長時間のフライトでも快適に過ごせる工夫がされていると感じました。

2 日目の朝 7 時頃（イギリス時間）にマンチェスター空港に到着しました。長時間座っていることは思っていたよりも大変で、時差の影響もあり、みんな疲れた様子でした。到着後は BSDC の職員の方が空港まで迎えに来てくださり、そこからバスで移動してそれぞれのホストファミリーと合流しました。私はホームステイ先まで送っていただき、バーバラさんと娘のザラが出迎えてくださいました。午後は部屋で休み、夜はミートパイのような料理とミルクティーを一緒に作っていただき、その後は韓国ドラマを見て過ごしました。これからの生活がとても楽しみです。【古橋 莉乃】



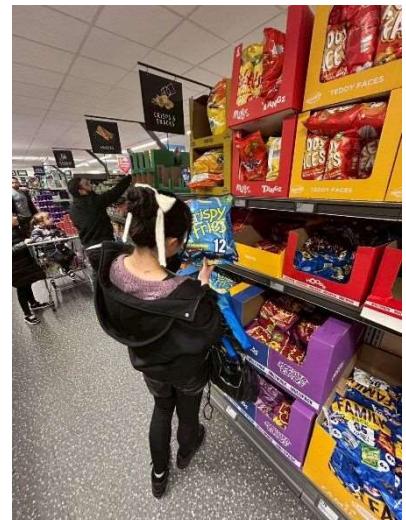
3月15日（日）

この日は、一緒にホームステイをしている珠里とともに BSDC 付近のショッピング街を訪れ、買い物をしました。三角屋根のレンガ造りの建物が並び、各家に本物の煙突があり、イギリスらしい街並みに感動しました。硝子張りの店舗が多く、お店の人やお客さんは目が合うと手を振ってくれたりして、まるでランウェイを歩いているようでした。支払いでコインを選ぶのに苦戦しているときも、優しく見守ってくれました。街の人々がとてもフレンドリーで、温かく親しみやすい雰囲気が印象的でした。お土産用のお菓子も多く購入することができ、充実した時間を過ごすことができました。



また、この日はイギリスの母の日だったので、珠里と一緒に花束を用意して、ホストマザーの Lisa に渡しました。Lisa はとても喜んでくれて、その花束をダイニングに飾ってくれたことが私も大変嬉しく、心に残りました。

その後、Lisa と Lisa の娘の Jaime、息子の Alfie とともにボードゲー



ムをしました。ブロックスというゲームで、リアクションでコミュニケーションを取ることもでき、楽しみながら交流を深めることができました。



夜は、母の日ということもあり、Lisa たちは Lisa の母親との外食に出かけたため、私たちは留守番をしました。出かける前に Jaime が牛肉入りのパイとマッシュポテトを用意してくれました。イギリスの伝統的な家庭料理だそうで、マッシュポテトの量の多さに少し驚きました。ポテトにグレービーソースがよく合いました。【佐藤 真由香】

朝から町を歩きながら、日本との違いをたくさん見つけました。服屋が多かったり、小麦粉の袋が破れたままスーパーに置かれていたりして驚きました。また、銀行が道に面していて開放的だったことや、雨が降っても現地の人あまり傘をささずに歩いていることも新鮮でした。店内にはトイレの案内表示が少なく、日本との違いを感じました。さらに、料理の品数が少ないことや、店によって値段に差が大きいことにも気づきました。

その後、友達と一緒に街を歩いてショッピングを楽しみました。文房具店では日本にはないようなおしゃれな商品が多く、見ているだけでも楽しかったです。カフェではハンバーガーとポテトを食べましたが、店員さんもお客さんもとても優しく、温かい雰囲気でした。スーパーでは、自分の英語がさまざまな人に通じ、自分の力で買い物ができたことが大きな自信につながりました。英語でコミュニケーションを取る楽しさも感じました。

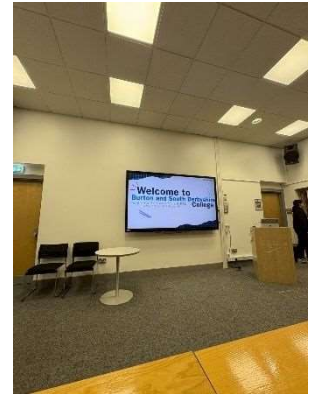
さらに、マザーズデイのプレゼントとして花とお菓子を買い、ホストファミリーに渡しました。とても喜んでハグをしてくれて、すぐに花瓶に飾ってくれたことが嬉しかったです。夜はみんなでゲームをしたり、夕食を囲んだりして、家族のように温かい時間を過ごしました。この経験を通して、異文化の中で生活する楽しさや、人とのつながりの大切さを学ぶことができました。

【河合 珠里】



3月16日（月）

この日は、初めて Burton and South Derbyshire College (BSDC) という大学の登校日でした。BSDC の先生と一緒にバートン市内を散策したり、2グループに分かれてショートムービーを作りました。ショートムービーは、ホラー班とコメディ班に別れて自分たちで構成と撮影を行いました。私はホラー班で、構成を考えることが一番難しかったです。撮影後、皆で鑑賞会をし、先生方がオスカー賞という良かった方を決めるという対決もしました。残念ながら、コメディ班に負けてしまったけど、楽しく同じ班の人と構成と撮影ができたのでよかったです。学校が終わった後、ホストマザー



が教えてくれた学校の近くにある服やコスメなどが安く売っているショップや、スーパーに行きました。スーパーで、イギリスで有名である“tea cakes”というお菓子を買いました。一つ食べてみたら、外はパリパリのチョコだけど中は溶けたマシュマロみたいな感じで、新しい食感で美味しいけど不思議に感じました。家に帰宅後、夜ご飯の時にこの日の出来事を共有しながら食べました。食べたことのない料理が出てきてびっくりしたけど、とても美味しかったです。【松崎 柚月】

3月17日（火）



BSDC での学校生活二日目です。朝起きて身支度をし、朝食はクロワッサンを食べました。私のホストファミリー宅から学校までは本来バスで通う範囲ですが、ホストファミリーが車で送ってくれました。午前中はアフタヌーンティー体験を BSDC で行いました。最初にスコーンをつくりました。材料の入ったボウルが各班配られ、班の子と順番で生地をこねあい、伸ばしました。そのあと型でくりぬき、オーブンへ入れ、数十分待ってスコーンが完成しました。とてもいい匂いでみんな食べるのを待ちきれない様子でした。次にサンドイッチを作りました。私たちの班はツナサンドとハムサンドをつくりました。最後にイチゴなどと合わせて完成品をアフタヌーンティーの皿にみんなで盛り付けました。盛り付けることで、私がイメージしていたアフタヌーンティーに一気に近づき、わくわくしました。そのあと、BSDC の学生たちと一緒に食べました。とてもおいしかったし、学生たちとすこし話すことができました。





午後は英語講座を受けました。英文を聞いて○×を判断したり、写真等からイギリスの地名を当てたり、みんなで和気あいあいと楽しく学ぶことができました。私が印象に残っているのはカフトをつかって、お店のロゴあてをしたことです。みんなで順位を競い、盛り上がりました。家に帰宅してからは、ホストマザーの妹のおうちに会いに行ってお話したりもしました。とても充実した一日で、すごく楽しく、いい経験になりました。【坂口 花】

3月18日 (水)

イギリスにあるトヨタ自動車の工場を訪問しました。日本の企業が海外でどのように働いているのかに興味があり、とても楽しみにしていました。実際に工場を見学すると、作業がとても効率よく進められていて、働いている人たちも安全に気をつけながら真剣に仕事をしている姿が印象に残りました。また、現地の方が英語で説明してくださり、すべてを理解することはできませんでしたが、聞き取ろうとすることの大切さを感じました。さらに、日本の企業でありながら、現地の人々と協力して仕事をしていることを知り、海外で働くことについて少しイメージを持つことができました。今回の経験を通して、英語力だけでなく、自分から学ぼうとする姿勢が大切だと学びました。これからは英語の勉強をもっと頑張りたいです。【岩附 心結】



3月19日 (木)

本日は動画作成の課題が出され、その制作のためにご飯をテイクアウトして公園でピクニックのように食べました。その日も天気がとても良く、快晴で、木の葉の間から差し込む光が地面に線のように映り、とても綺麗で印象に残りました。外で食べるご飯は特別な感じがして、暖かい気温の中リラックスしながら楽しい時間を過ごすことができました。その後はカルチャーショーに向けた準備を行いました。準備の際にはヤニスやバーニースが来てくれて、応援してくれたことがとても嬉しかったです。また、イギリスでの疲れが急に出てしまい、思わず寝てしまいましたが、起きたときに「よく寝れた？」と少し皮肉のある言い方で聞か



れ、イギリスらしいと感じました。カルチャーショー当日は、他のグループの発表も含めてどれも成功しており、百人一首も無事にやり切ることができて安心しました。さらに、食事中に他の人のホストファミリーとも話す機会があり、どのファミリーも親切で良い人たちだと感じました。この日は日本についてたくさん伝えることができ、いい日になりました。【川瀬 一熙】



3月20日（金）

3月20日は、チャリティー活動やミュージアム見学、市長への挨拶など、たくさんの貴重な経験をしました。最初に訪れた教会はとても美しく、ステンドグラスの色合いや静かな雰囲気がとても印象的でした。中に入ると落ち着いた空間が広がっていて、心が穏やかになるような気がしました。ミュージアムでは、展示を見るだけ



でなく、LEGOで遊ぶこともでき、とても楽しかったです。普段とは違う環境で遊ぶことで、よりワクワクした気持ちになりました。お昼にはトラディショナルフードであるチーズのスコーンとトマトスープを食べました。素材の味をしっかりと感じました。日本とは少し違う美味しさを楽しむことができました。

その後、ダービーの昔の町並みを感じる場所を訪れ、歴史について学びました。実際にその場所に行くことで、教科書では分からないようなリアルな雰囲気を感じることができました。最後に、ダービーシャー県庁を訪問し、議会副党首ロバート・リーニー議員に挨拶をし、簡単なスピーチをしました。とても緊張しましたが、無事に終わることができて安心しました。その後、一緒に写真撮影し、とても良い思い出になりました。【井場 美波】



3月21日(土)



この日はリークという、少し家から離れた場所へ行きました。道中では、高齢の方々が作ってくださるベーコンパンを朝食として食べました。その収益は地域のために使われているようで、単なる食事ではなく、地域を支える活動の一つになっていると感じました。現地の人々はとてもフレンドリーで、初対面でも自然に挨拶を交わし、会話をしている様子が印象的でした。その後、ホストマザーがATMを探して現金を引き出そうと、さま



ざまなお店に入りました。しかしなかなか見つからず、ある店では「ATMが盗まれた」と聞き、とても驚きました。さらにホストマザーは植物が好きで、この日訪れたすべてのお店で植物を購入しており、「どうしても買わずにはられない」と話していて、その植物への強い愛情を感じました。その後、ホストファミリーの知り合いの家を訪れ、植物をもらいに行きました。そこでは猫や馬、鶏など多くの動物がおり、特に猫が何度も近寄ってきてくれました。自然に囲まれた環境の中で、人だけでなく動物とも触れ合うことができ、日本ではあまりできない貴重な体験でした。また、途中でクラフトイベントのような場所にも立ち寄り、レモンケーキを食べました。ホストマザーと二人で行きましたが、そこにはホストマザーのお知り合いが多くおり、一緒に楽しく会話をしながら過ごしました。難しい単語も私のために分かりやすく説明して下さったので、私も輪に入って話すことができました。さらに別のお店でケーキを食べる予定でしたが、午後3時には閉店しており、日本との営業時間の違いに驚きました。この一日を通して、日本との違いを多く知ることができました。【岩屋 美咲】



この日は、ホストファミリーのモニカが「バーミンガムに一緒に行こう」と提案してくれ、朝から電車で出かけました。モニカと遠出をするのは初めてで、少し緊張もありましたが、移動中にたくさん会話ができ、とても楽しい時間になりました。電車の中では大きな犬を連れている人もおり、周りの人たちがその犬をなでたり、笑顔で見守ったりしている様子が印象に残り、イギリスの人々の温かさや優しさを実感しました。バーミンガムに到着してからは、大きなショッピングモールに行き、お店を見て回りました。日本とは雰囲気異なる店が多く、見ているだけでも新鮮で興味深かったです。また、モニカがお昼ご飯にハンバーガーをごちそうしてくれ、その優しさにとっても嬉しい気持ち



になりました。食事の時間も会話が弾み、英語でのやりとりにも少しずつ慣れてきたと感じました。その後はマーケットにも行きました。そこではさまざまなものが売られており、特に牛や豚の頭や舌、足などが丸ごと並んでいたことにとっても驚きました。日本ではあまり見かけない光景であり、文化の違いを強く感じました。この一日を通して、モニカとの交流を深めることができただけでなく、現地の文化や生活を実際に体験することができ、とても貴重な経験になりました。

【鈴木 心菜】

3月22日(日)

今日は、「イギリスと言えばロンドンに行ってみよう」という私の願いを先生方が叶えて下さり、予定の空いている派遣生でロンドン日帰り旅に出かけました。

ダービー駅からロンドンまで電車で1本、約2時間半かかりました。朝早くからホストファミリーの助けを頂き出掛ける事が出来ました。ロンドンに到着して、まず人の多さにビックリしました。

バッキンガム宮殿では、微動だにしない近衛兵に感心して見入ってしまいました。私は派遣生のみさきと一緒にロンドンの街並みを楽しむために歩いて行動しました。

有名なビックベンを見て、赤い電話ボックスで写真を撮りました。イギリスらしいショットで満足でした。



お昼には、チキン&ステーキを食べました。お値段は少々気になりましたが、味と量には大満足でした。他にも、有名な紅茶のお店に行き、パンを買って公園で食べるなど、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

私はロンドンの街並みがとても気に入りました。建物もそうですが、石畳の道がヨーロッパらしさを感じさせるからです。

そして、家に帰ると遅い時間にも関わらずホストファミリーが待っていてくれました。充実した1日だったかと聞かれた時には、笑顔でYESと答えました。

「疲れたでしょう、早く休みなさい」と言われた時には家族の温かさを感じてとても幸せな気分になりました。【安部 玖美】



イギリスでの滞在も残り2日となった最後の休日に、私たちはロンドンを訪れました。慣れていない電車やロンドンバスに乗り、乗り間違えることもありましたが、日本の都市との違いや物価、文化の違いを実際に感じる事が出来ました。



特に印象に残っているのはロンドンの街並みです。滞在していたバートンとは異なり、レンガ造りの大きな建物や特徴的なタクシーなど、映画に出てくるような景色が広がっていました。ビッグ・ベン周辺では、日本との違いを感じながらも、どこか道頓堀に似ているように感じました。

また、タクシーを利用した際にはベンツの大型車が来て、日本よりも料金が安く、運転手の方も親切に会話をしてくれたことが印象的でした。

さらに、Abbey Road ではみんなで写真を撮り、

ショップで買い物も楽しみました。ずっと行って見たかった場所へ行くことができ、とても嬉しかったです。

一方で、食べ物や飲み物の価格の高さには驚きました。ホットドッグが約 800 円、水が約 600 円と、日本との大きな差を感じました。ロンドンを訪れて、街並みや物価、多様性など多くの違いに触れ、自分の視野や考え方を広げることができました。【大西 海鷲】



3月23日 (月)



本日はベルパースクールを訪れ、現地の生徒と一緒に授業を受けました。1 限目は英語の授業でした。日本の学校でいう国語のような内容で、文章を読んで自分の意見を書き、先生に確認してもらった形式でした。私は文章を読むだけでもかなり時間がかかってしまいました。教科書に載っている英文よりもずっと長く、知らない単語も多かったため、とても苦労しました。また、日本とは違い、8 人ほどしか一緒に授業を受けてい

なかったことにも驚きました。休憩時にはカフェテリアでパスタサラダを食べました。最初はこれが昼食だと思っていましたが、スナックタイムの軽食だと教えてもらい、とても驚きました。日本にもこの制度があれば良いのにと思いました。2 限目の地理の授業では、世界地図の中心にイギリスが描かれていたことが印象的でした。また、日本について書かれた資料を見ることができ、日本は自然災害が多い一方で、避難訓練や建築技術が高度に発展している国として紹介されていました。海外から見た日本の特徴を知ることができ、とても興味深かったです。その後は現地の生徒とスコーンを作りました。会話を楽しみながら作ることができ、とても楽しい時間になりました。最後には連絡先を交換することができたので、これからも交流を続けていきたいと思いました。【香川 絢】



3月24日 (火)・25日 (水)

この日は、派遣最終日で、ホストファミリーとお別れをする日でした。これまでの思い出が一気によみがえり、一緒にピクニックに行ったことや、庭で逆立ちを披露して盛り上がったこと、そして毎日美味しいご飯を作ってくれたことなど、どれも大切な思い出だと改めて感じました。最初は言葉がうまく通じず不安もありましたが、日が経つにつれて少しずつ会話ができるようになり、心

の距離も縮まっていったように思います。

また、時差の影響で24日は本当に一瞬で終わったように感じました。朝に飛行機に乗ったはずなのに、気がつくとも日付が変わっていて、とても不思議な感覚でした。日本に帰ることを考えると、まだイギリスにいたいという気持ちもありましたが、家族に会いたい気持ちも強く、帰国後はラーメンなど日本の食べ物を食べたいとも思いました。

今回の派遣を通して、新しい文化や人との出会いの大切さを実感することができました。この経験をこれからの生活にも活かしていきたいです。【織田 陵慧】



派遣を終えて

ホストファミリー紹介

現地での学び

今後活かしたいこと

1 豊田工業高等専門学校 古橋 莉乃

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、ホストマザーのバーバラと、娘のザラでした。バーバラはとても優しく、初日はハグで温かく迎えてくれました。「ここを自分の家だと思っていいよ」と声をかけてくれたことで、緊張していた気持ちがすぐに和らぎました。

英語での会話が難しいときには、WhatsApp でメッセージを送るなど工夫してくれたおかげで、安心してコミュニケーションをとることができました。夜には一緒に料理をして紅茶を飲んだり、韓国ドラマを見たりして楽しい時間を過ごしました。ザラは中学生で、洗濯やシャワーの使い方など、生活面について丁寧に教えてくれました。



バーバラは看護師として忙しい中でも、毎日「今日は何をしたの?」と声をかけてくれ、気にかけてくれていることが伝わってきました。短い期間ではありましたが、温かく充実した時間を過ごすことができ、心に残る滞在となりました。



●現地での学び

私は今回イギリスを訪れ、日本とは異なる文化の中で生活することで、主に三つの気づきや学びを得ることができました。

一つ目は、日本で当たり前だと思っていたことが、必ずしも当たり前ではないということです。バスは遅れることが多く、バス停で待っていても通り過ぎてしまうことがあったり、赤信号でも周囲の状況を見て渡る人が多いなど、日本との違いに驚くことがたくさんありました。フィッシュアンドチップスやアフタヌーンティー、スコーン作りといった食文化にも触れ、興味深く感じました。こうした体験を通して、普段意識していなかった日本の生活の特徴について改めて考えるようになりました。

二つ目は、コミュニケーションの大切さです。現地の学生と同じテーブルで食事をしたり、学校案内をしてもらうなど、交流する機会が多くありました。学生の会話はスピードが速く、聞き取るのが難しい場面も多かったため、最初は内容を十分に理解することができず、戸惑うこともありました。それでも、分かる単語を拾いながら伝えようとする、相手が簡単な単語を使ってくれたり、ジェスチャーを交えて丁寧に説明してくれたりしました。そうしたやり取りを重ねるうちに、少しずつ会話ができるようになり、最後には一緒に遊ぶこともでき、とても印象に残る経験となりました。

三つ目は、自分から行動することの大切さです。最初は不安もありましたが、自分から話しかけたり質問したりすることで、できることが少しずつ増えていきました。バス停で自分から英語で行き先を尋ねることができるようになり、言葉が完璧でなくても、伝えようとする姿勢が重要であると実感しました。自分から行動することで会話のきっかけが生まれ、相手との距離を縮めることができると感じました。そのため、積極的に話しかけることを意識するようになりました。一歩踏み

出すことで、新たな学びやつながりが生まれるのだと強く感じました。



●今後活かしたいこと

帰国後の生活や将来に活かしていきたいことは、主に三つあります。今回の経験を通して、これまで当たり前だと思っていたことを見直し、自分自身の考え方や行動を振り返ることができました。また、異なる文化の中で生活したことで新たな価値観に触れ、視野を広げることができたと感じています。これらの学びを、今後の生活や将来にしっかりと活かしていきたいと考えています。

一つ目は、日本の良さや特徴について改めて理解を深めることです。現地での生活を通して、日本の当たり前が決して当たり前ではないことに気づきました。現地の学生とお互いの国について話した際、自分は思っていた以上に日本のことを知らないと感じました。これからは日本の文化や特徴についてより深く学び、自分の言葉で分かりやすく伝えられるようになりたいです。日本と他国との違いや共通点を意識しながら、多角的な視点で物事を捉える力を身につけていきたいと考えています。

二つ目は、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を大切にする事です。今回の経験から、英語が完璧でなくても、知っている単語などを使って伝えようとする事で相手に伝えることができると実感しました。文法の正しさにとらわれすぎず、自分から話しかけることを意識していきたいです。また、相手の話をよく聞き、相手の立場に立って考えながらコミュニケーションを取ることも大切にしていきたいです。一方で、自分の伝えたいことを正しく伝えられない場面もありました。そのため、語彙や表現を増やすとともに、聞き取る力も高め、より円滑な意思疎通ができるよう努力していきたいです。

三つ目は、自ら行動し挑戦する姿勢を持ち続けることです。現地での生活の中で、自分から行動することで新しい出会いや成長につながることを実感しました。今後は学校生活や将来においても、失敗を恐れず積極的にさまざまなことに挑戦していきたいです。また、異なる価値観に触れる機会を大切にしながら、自分の視野をさらに広げていきたいと考えています。今回の経験で得た学びを一時的なものにせず、今後の生活の中で継続して活かしていくことで、自分自身の成長につなげていきたいです。

2 豊田西高等学校 佐藤 真由香

●ホストファミリー紹介



私のホストファミリーは、Lisa と 22 歳の娘 Jaime、20 歳の娘 Evie、16 歳の息子 Alfie の 4 人家族でした。Lisa は、 Barton・アルビオン・コミュニティ・トラストでオルタナティブ教育に関わる仕事をしています。Jaime も在宅ワークで、平日は忙しそうに過ごしていました。Alfie は大

学生ですが、骨折中であったため、家で大学の課題に取り組んでいました。Evie は一人暮らしをしているため家にはいませんでしたが、ビデオ通話をする機会があり、話をすることができました。

また、Lisa はベテランのホストマザーで、前日まで日本人男子 2 人が滞在していたそうです。私たちの受け入れにも慣れていく様子でしたが、本人は毎回どのような子が来るのか緊張すると話していました。

滞在中の食事は Lisa と Jaime が作ってくれました。Jaime は日本食が好きで、よく味噌汁を作って食べると言っていました。また、ジブリ作品の中では「ハウルの動く城」が好きだと話していました。



●現地での学び

今回のイギリス派遣を通して、私は三つのことを学びました。



一つ目は、文化の違いです。私は現地で食文化を実際に体験しました。授業ではアフタヌーンティー用のスコーンを作り、ホストファミリーの家ではビーンズやエールパイなどの料理をいただきました。特にスコーンは何度も食べる機会があり、イギリスの食文化を象徴するものだと感じ、印象に残っています。

金曜の夜には、ホストファミリーとパブに行きました。パブは大人がお酒を飲む場所というイメージがありましたが、実際には子ども連れも多く、食事を楽しむ地域の交流の場でした。そこで、日本とイギリスの価値観について話し、日本では外見が重視されがちで、イギリスでは内面が重視されるという考え方を知り、自分の価値観を見つめ直すきっかけになりました。

二つ目は、ダービーシャーで産業や人とのつながりを学んだことです。クロムフォード・ミルを訪れ、水力紡績機を見学し、イギリスが産業革命の地であることを実感しました。教科書で学んだ内容を実際に目で見て理解できたことは、とても貴重な経験でした。

また、豊田市とダービーシャーの提携におけるトヨタ自動車の重要な役割を知り、工場見学や社員の方との交流を通して、誇りを持って働くことや、職場でのコミュニケーションの大切さを学びました。

三つ目は、コミュニケーションには勇気と粘り強さが必要だということです。私は最初、文法が完璧でないことを気にしてしまい、自分から話しかけることにためらいがありました。しかし、ホストファミリーや学校の友達、街の人々と関わる中で、単語だけでも伝えようとすることで、相手は理解しようとしてくれると気づきました。



イギリスの人々は日常的に感謝の言葉を伝え合い、とても親切で謙虚でした。そのような環境の中で、私は間違いを恐れずに伝え続けることの大切さを学び、積極的に話しかけるという自分の目標を達成することができました。

●今後活かしたいこと

今回の派遣を通して学んだことを、今後の生活や将来に活かしていきたいと考えています。活かしていきたいことは、大きく分けて二つあります。

一つ目は、イギリスの文化や価値観を共有していくことです。今回私は、実際に現地で体験することを通して、日本との違いを多く学ぶことができました。最初はその違いに驚くこともありました。しかし、現地の人々と話す中で、その背景や意味、魅力を少しずつ理解できるようになりました。この経験から、異なる文化や価値観はただ違うものとして捉えるのではなく、理解しようとする姿勢が大切であると感じました。

今後は、こうした経験を学校の仲間に発表するなどして共有し、自分の学びを発信していきたいと考えています。また、自分自身もイギリスに限らず、世界にはさまざまな文化や価値観があることを常に意識し、それらを理解しようとする姿勢を持ち続けていきたいです。さらに、それらを多様な視点として自分の考え方に取り入れることで、物事を多角的に捉えられるようになりたいと考えています。そして将来、自分がビジネスアイデアを生み出す際にも、このような広い視野を活かしていきたいです。



二つ目は、粘り強くコミュニケーションをとることです。私は最初、間違えることを恐れてしまい、自分から話しかけることがなかなかできませんでした。しかし、研修を通して勇気を出し、自分の殻を破ることができました。一度踏み出した一歩はその後も止まることなく、ホストファミリーだけでなく、大学の生徒や先生、ガイドの方、お店の店員さんやお客さんなど、多くの人と関わることができました。自分の伝えたいことが相手に伝わるという経験を積み重ねたことで、自信につながり、コミュニケーションへの意識も大きく変わりました。

これからの人生においても、この「伝えようとする姿勢」を忘れずに持ち続けていきたいです。また、今後も海外に行き、日本の魅力を自分の言葉で発信していくようなコミュニケーションに挑戦していきたいと考えています。

今回の派遣で得た経験を一度きりのものにせず、これからの行動に活かしていくことで、自分自身の成長につなげていきたいです。

最後に、今回の派遣を支えてくれた両親、豊田市役所の方々、派遣団の仲間、そして今回の研修事業に関わってくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

3 豊田東高等学校 河合 珠里

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、マザーのリサをはじめ、とても温かく優しい家族でした。イギリスに到着した初日、長旅で疲れていた私をハグで迎えてくれ、伝統料理であるバイクドビーンズの軽食を用意してくれた時の安心感は今でも忘れられません。滞在中、体調を崩しそうになった時には心配してのど飴やドライヤーを貸してくれたり、朝の送り迎えをしてくれたり、常に私を気遣ってくれました。また、現地の「マザーズデー」には友達と花を買いに行っ



てプレゼントし、とても喜んでもらったことも大切な思い出です。言葉の壁があっても、いつも「You are beautiful」と褒めて自尊心を高めてくれたりリサたちの優しさに支えられ、安心して過ごすことができました。帰国した現在もアプリを通じてメッセージを送り合っており、私にとって一生の宝物となる、イギリスのもう一つの家族ができました。

●現地での学び



2週間のダービーシャー派遣を通じて、私は日本とイギリスの文化や生活様式の違いに驚くとともに、何よりも現地の人々の生き方から多くのことを学びました。

現地では、家の中でも土足で過ごすことや、スープにスコーンを合わせる食文化、フォークでご飯を食べることなど、日常のあらゆる場面が新鮮でした。また、歩行者用信号の時間が極端に短かったり、少しの雨なら傘を差さずに歩いたり、最初は戸惑うことも多くありました。

しかし、そうした「違い」以上に私の心に強く残ったのは、現地の人々の心の温かさと、個人の自由や多様性を尊重する姿勢です。買い物でお金の計算に手惑い、後ろに並ぶ人に申し訳なく思って謝った際、店員さんも周囲の人も「気にしなくていいよ」と笑顔で声をかけてくれました。また、バスに乗るたびに誰もが運転手さんにお礼の言葉を伝える姿を見て、日常の小さな感謝を言葉にする素晴らしさを実感しました。

大学の授業や現地校での交流では、自分の意見をしっかりと持ち、自由に表現する現地の人々の行動力に圧倒されました。最初は英語でのコミュニケーションに大きな不安がありましたが、こちらの拙い英語でも真剣に耳を傾け、伝わった時には自分のことのように喜んでくれる温かさに触れました。この経験から、言語や文化の違いを恐れる必要はな

く、相手を理解しようとする姿勢と、自分の想いを伝えようとする一歩の勇気があれば、世界中の人と深くつながることができるのだと学びました。周りの目を気にしすぎず、自分の意見を大切にしながらも、同時に他者の多様な価値観をありのままに受け入れ、尊重する。そんなイギリスの人々の視野の広さと心の豊かさに触れたことは、私自身の価値観を大きく広げるきっかけとなりました。

●今後活かしたいこと

今回の派遣で得た最大の財産は、「言葉が通じない環境で生活する不安」を身をもって経験したこと、そしてそれを温かく受け入れてもらう喜びを知ったことです。私は将来、保育士になるという夢を持っています。近年、日本、そして私の住む豊田市でも、海外にルーツを持つ子どもたちや保護者の方が急速に増えています。

イギリスにいた時の私は、まさに彼らと同じ立場でした。言葉がうまく伝わらなかったり、日本とは異なる生活様式に直面したりするたびに、心細さや不安を感じていました。だからこそ、日本で暮らす外国籍の保護者の方々が抱く、言葉の壁による孤立感や、文化の違いから生じる生活への不安が、今なら痛いほどよく分かります。もし日本語でのコミュニケーションが十分に取れなければ、子どもの体調不良や緊急時の対応において、園と意思疎通ができず、子どもの命や安全を守ることに難しくなってしまうかもしれません。

私は将来、保育士として現場に立ったとき、単に子どもを預かるだけでなく、そうした海外にルーツを持つ家庭の不安に寄り添い、園と保護者をしっかりとつなぐ「架け橋」のような存在になりたいと考えています。イギリスでリサたちが私に教えてくれたように、まずは笑顔で迎え、相手の文化や背景を否定せず、お互いの歩み寄りを大切にす姿勢を実践していきます。そして、言葉が不自由であっても安心して大切な子どもを預けられる環境を作り、子どもたちが多様な価値観の中で自分らしく、のびのびと育ていけるようサポートしたいです。

この夢を実現するため、そして今回の貴重な経験を無駄にしないために、帰国後の今、2つのことに取り組みたいと考えています。1つ目は、英語の勉強を継続することです。現地で伝わった時の喜びを忘れず、より深いコミュニケーションが取れるよう語学力を磨きます。2つ目は、豊田市が実施している海外事業や国際交流イベントに、今後も積極的に参加することです。今回は派遣される側として多くのものをいただきましたが、今度は学んだ経験を活かし、豊田市を訪れる外国人の方々を支えたり、地域の国際化に貢献したりする側として活動の幅を広げたいです。今回の派遣を大きな成長のきっかけとし、常に広い視野を持ち続けながら、これからの人生にしっかりと活かしていきたいと思えます。



4 衣台高等学校 松崎 柚月

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、ホストマザーの Susan、ホストファザーの Nick、犬の Pomme の 3 人でした。慣れない環境で初めてのホームステイだったので、最初はとても緊張していたのですが、Susan と Nick がたくさん話しかけてくださったおかげですぐに緊張がほぐれました。Susan は、今までにたくさんのホームステイを受け入れていて、日本の人も受け入れていたと聞きました。そのため、私たちと会話するときはゆっくり話してくれたおかげで楽しいホームステイ生活を送ることができました。ホームステイ中、Nick が毎朝トーストを焼いたうえでスクランブルエッグをのせて準備してくれていました。私たちが、朝どれだけ早い時間に家をでるとなっても絶対に準備してくれてとてもありがたかったし、音楽が流れている中で食べた朝ごはんは、とても優雅な時間だったことを覚えています。また、一



番心配していた食生活の面では、手料理で毎日おいしい料理をごちそうしてくれて、日本とは違った食を楽しむことができ本当に感謝しかないです。この二人と出会えたことで、海外の文化や習慣を知ることができ、コミュニケーションすることの大切さを教えてもらい、日本に帰ってもコミュニケーションをとることと文化の違いを理解して、高校に在籍している違う国籍の生徒と関わっていこうと思えました。私たちを受け入れてくれた二人には感謝の気持ちでいっぱいです。

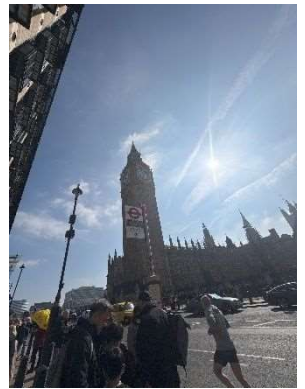
●現地での学び

13 日間という長いようで短かった研修の中で、たくさんのことを経験してたくさんのことを得ることができた期間でした。私は、この派遣が初めての海外経験で、行く前は実際に英語しか使わない生活についていけるのか、会話の中に入っていけるのかとても心配で緊張していました。しかし、現地の生徒のみんなや先生方、ホストファミリー、なにより共に長い時間を過ごした派遣生徒のみんなのおかげで楽しい日々を送ることができたし、たくさん学びを得ることもできました。その中でも、特に私が学べたと思うことは二つあります。

一つ目は、勇気を出して行動するということです。私は、はじめの方はとても緊張で自分から話しかけに行けなかったり、文法の使い方があっていのかどうかの不安から黙り込んでしまったりしていました。さらに、会話のスピードも速く、英語を聞き取るのもとても難しかったです。ですが、派遣生徒のみんなが一生懸命話しているのを見て、私も話してみようと大学の生徒などに話しかけました。その結果、わかりやすくゆっくり話してくれたり、知らない単語があったら翻訳を使って説明してくれたりなど、とてもやさしい人が多く私自身も楽しく会話することができました。

二つ目は、文法を気にせず、とにかくワードをたくさんだすということです。今まで、英語を使って話すときは文法の使い方があっていないと相手に伝わらないものだと思っていました。ですが、会話を重ねていく中で文法は関係なくとにかく伝えようとするのが大事であるという事を学びました。その結果、現地の生徒やホストファミリーと楽しい時間を過ごすことができました。

私がこんなに充実し、楽しめ、たくさんの経験をさせてくれた豊田市役所の方々、BSDCのスタッフの方々、派遣メンバー、なにより研修に行かせてくれた家族にたくさん感謝をしたいと思いました。



●今後活かしたいこと

今回の研修を通して、私は今後さらに英語力を伸ばしていきたいと強く考えています。幼い頃に英会話に通っていた経験がありますが、今となっては、英語は教科の一つとして学んでいるという意識が強く、実際どのように役立つのかを深く考える機会はありませんでした。しかし、今回の研修期間の中で英語でのコミュニケーションの重要性を改めて実感し、自分自身の将来や学校生活でも必要不可欠な力であると感じました。

その理由の一つは、将来看護師になりたいという目標があるからです。看護師として働くうえで、日本に住んでいる外国の方や旅行で来日した方が病院を訪れる機会は少なくありません。そのような時に、言葉が通じないことで不安や戸惑いを感じさせてしまうのではなく、安心して医療を受けてもらえるように支えられる看護師になりたいと考えました。特に医療の現場では、患者の気持ちや症状を正確に聞き出すことが重要であり、そのためにはコミュニケーション能力と英語力が欠かせません。ただ単に単語や文法を覚えるだけでなく、相手に寄り添う力や伝える力、さらにコミュニケーション能力などをもっと身に付ける必要があると感じました。



理由の二つ目は、私の高校には多くの多国籍の生徒が在籍しているからです。普段の学校生活の中で異なる文化や価値観に触れる機会が多い環境にいるからこそ、英語を使って積極的に関わっていくことが大切だと考えました。英語という共通言語を通じて意見交換を行うことで、お互いの考えを理解し、自分の意見を伝えるだけでなく相手の意見も大切にし、他の人に共有するなど、架け橋のような存在になりたいと思いました。

今回の研修で学び得たことを今後の学習に活かし、英語力の向上に努めていきたいです。そして、将来や日常生活のさまざまな場面で役に立つことができるよう、積極的に英語に触れ続けていきたいと考えています。

5 猿投農林高等学校 坂口 花

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは妻 Julieさんと、夫 Tonyさんの老夫婦とボーダーコリーの Megです。お二人には二人の娘さんがいらっしゃいます。



Julie は、とても親切な方です。わたしたちが初めて出会うとき、緊張していた私に、ハグして笑顔で話しかけてくれました。また、毎回おいしい夜ご飯を彼女が作ってくれました。よく私を気にかけてくれて、たくさん話題を振ってくれたので、彼女のおかげでたくさん自然とコミュニケーションをとることができました。Tony は、とても紳士な方です。出会ったとき私の重いスーツケースを持ってくれたり、ドアを開けてくれたり、朝起こしてくれます。また、出かけるときは毎回車を出してくれました。Tony さんはいつも私の英語力でもわかるようなジョークを言っていて、場を和ませてくれて、彼のおかげで自然と緊張が解けていきました。

お二人とも私の話や質問を嫌な顔一つせず真摯に答えてくれて、短い期間でしたが、家族だと思えるような素敵なお方々でした。

●現地での学び・今後活かしたいこと

私がイギリスで感じたことは日常的な豊かさです。日本のように、スマホをじっと見つめるような人が少ないように感じました。派遣生が訪れたベルパースクールでは、生徒の休憩室のような部屋があり、みんな友達同士で集まって会話したりお菓子シェアしたりしていました。また、私のホストファミリーはよくパブに連れて来てくれて、友人に会わせてくれました。パブとはイギリス発祥の公共の酒場で、ドリンクを飲みながら、スナックを楽しむことができます。友人と近況を話したり、年齢関係なく常連同士であいさつしたり、そのまま会話に少し混ざったりもしていました。どの年齢層でも会話を楽しんでスマホを見る人はほとんどいませんでした。一人でいる人も、ランニングしたり、犬の散歩をしていたり、本を読んでいた



り、ヘッドホンで音楽を聴いていた、多種多様でした。生活がスマホに縛られておらず、自分の時間や、人とのかかわりを大事にしているように感じました。そして、自然もとても豊かでした。私が現地に到着して初めに驚いたことは、野生の白鳥がとてもたくさんいたことです。私は動物園などでしか見たことがなかったので、思わずたくさん写真を撮ってしまいました。ホストファミリーと一緒に公園へ訪れた時も、たくさんの鳥のさえずりが聞こえてきました。町に緑が多かったのも印象的です。特に黄色いスイセンが町のいたるところに植わっていました。Julie に理由を尋ねると、スイセンは春を告げる花として、イギリスの人々にとって身近な花であることがわかりました。日本も桜などの春を象徴する花があるので、彼らも同じような存在があるのだなとわかりました。

このことを踏まえて、私は暇な時間があればすぐスマホをさわ



っていたり、無意識のうちに長時間使用してしまい、人との直接的なコミュニケーションや、自分自身と向き合う時間が減ってしまいがちであると感じました。しかし、イギリスでの経験を通して、そうした時間こそが心の豊かさにつながるのだと感じた。私も、スマホの使い方を改めて考え、自分にとって有意義な時間の使い方をできるようにしていきたいと思いました。例えば、食事中や友人・家族と過ごす時間にはスマートフォンをできるだけ使用せず、会話やその場の雰囲気大切にすることを意識したいと思いました。また、移動時間や空いた時間においても、ただ画面を見るのではなく、本を読んだり、自分の考えを整理したりする時間として活用していきたいです。目の前の人との関係を大切にして、自分の趣味や考えを深める時間を意識的に確保していきたいです。



次に、学んだことは、言語が完璧でなくても伝えようとする気持ちや学ぼうとする姿勢が大切ということです。正直、私は英語が話せたり、聞き取れる自信もなく、英語が得意教科というわけでもありませんでした。ホストファミリーとその家族が話している会話を聞き取ろうとしても、ネイティブ同士の会話はスピードが速く、うまく聞き取れないことが多かったです。そのため、緊張もあいま、なかなか自分から話しかけることがなかなかできませんでした。しかし、ホストファミリーがたくさん私の話題を振ってくれたので、文法はめっちゃうちゃけど、知っている単語をならべてみたり、ジェスチャーしたり、いろんな方法を試しながら伝えようとしていました。そうしたら、みんな体を寄せて私の英語に耳を傾け、聞き取ろうとしてくれました。一生懸命伝えようとしてれば、拙い英語でも、最後までしっかり聞いてくれることを知りました。そこでイギリスに滞在する10日間無駄にはできないと心を入れ替え、わかる単語だけでも聞き取って、とりあえず話してみようということ意識しました。そうすると、自然と最初の私よりもたくさんのコミュニケーションを取ることができました。イギリスの人々はとても親切な方が多かったので、恐れず質問すれば、この事かな？これかな？と私の意図や聞きたいことを探りながら答えてくれました。実際に、ホストファミリーの孫の Alicia ちゃんと話していて、質問したりすると、彼女のスマホで翻訳を使って、私の意図を確認しながら会話してくれました。彼女は10歳ですが、とても大人で、私の英語の発音なども、直してくれたりしました。Alicia ちゃんは私の英語の先生です。



このことを踏まえて、今後の英語学習においては、単に正確さを求めるだけでなく、「実際に使って伝えること」を意識して取り組んでいきたいと思いました。授業や日常生活の中でも、間違いを恐れて発言を控えるのではなく、自分から積極的に話しかけたり、自分の意見を伝えたりする姿勢を大切にしたいです。また、英語以外の場面でも、人と関わる際には受け身になるのではなく、自らコミュニケーションを取ろうとする意識を持ち続けたいと思いました。

さらに、将来さまざまな人と関わる機会が増えたときにも、この経験を活かしていきたいです。言葉や文化の違いがあっても、相手を

理解しようとする気持ちと、自分の思いを伝えようとする姿勢があれば、お互いに通じ合えると感じたからです。このように、伝えようとする姿を大切にすることで、人とのつながりを広げ、自分自身の成長にもつなげていきたいです。私は現地で伝えたいことが英語として出てこないもやもやする気持ちをたくさん経験しました。このもやもやを少しでも減らせるように、英語の学習をより力を入れて継続していきます。

6 松平高等学校 岩附 心結

●ホストファミリー紹介



今回の派遣でお世話になったホストファミリーは、とても優しく温かい方々でした。最初は英語での会話に不安があり、うまく話せるか心配でしたが、ゆっくり話してくれたり、分かりやすい言葉で伝えてくれたりしたので、安心して過ごすことができました。また、食事の時には学校のことや日本の文化について質問してくれて、会話を楽しむことができました。週末には一緒に外出したり、家で映画を見たりして、家族の一員のように接してもらえたことがとても嬉しかったです。この経験を通して、言葉が完璧でなくても、伝えようとする気持ちが大切だと感じました。短い期間でしたが、とても貴重な思い出になりました。

●現地での学び

今回のイギリスでの派遣を通して、私は多くのことを感じ、学ぶことができました。特に強く感じたのは、自分から行動することの大切さです。最初は英語に自信がなく、間違えることが怖くて、なかなか自分から話しかけることができませんでした。しかし、このままでは何も成長できないと思い、簡単な言葉でもいいから自分から話すことを意識するようになりました。すると、相手はしっかりと話を聞いてくれて、うまく伝わらなくても理解しようとしてくれました。その経験から、完璧な英語でなくても、伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションは取れるのだと実感しました。

また、日本とイギリスの文化や生活の違いにも多く気づきました。食事の習慣や生活リズム、人との距離感などが異なっており、最初は戸惑うこともありましたが、それも含めて新しい経験として楽しむことができました。特にホストファミリーとの生活では、日常の何気ない会話の中で文化の違いを感じることも多く、とても印象に残っています。

さらに、今回の経験を通して、英語は教科として学ぶだけでなく、実際に使うことで身につくものだと感じました。授業で学んだ文法や単語も、実際の会話の中で使うことで初めて自分のものになるのだと思いました。今後は、間違いを恐れずに積極的に英語を使い、より実践的な力を身につけていきたいです。



この派遣で得た経験は、これからの自分の成長にとって大きな意味を持つものになりました。今回学んだことを忘れず、今後の生活や学習に生かしていきたいです。

●今後活かしたいこと



今回のイギリスでの派遣を通して学んだことを、これからの生活や将来に生かしていきたいと思いました。特に強く感じたのは、自分から行動することの大切さです。現地では英語に自信がなく、最初は自分から話しかけることができませんでした。しかし、このままでは成長できないと思い、簡単な英語でもいいから話してみよう意識するようになりました。すると、相手がしっかり聞いてくれて、自分の言いたいことを理解しようとしてくれました。この経験から、完璧でなくても、自分から伝えようとするのが大切だと学びました。帰国後も、授業や日常生活の中で、自分から行動することを意識していきたいです。

また、英語の勉強に対する考え方も変わりました。これまではテストのために勉強することが多かったですが、実際に英語を使ってみて、人とつながるための大切な手段だと感じました。私は将来、看護師になりたいと考えています。看護師として働く中で、外国の患者さんと関わることもあると思うので、そのときに困らないように、これからは使える英語を意識して勉強していきたいです。例えば、英語で日記を書いたり、授業でも積極的に発言したりして、少しずつ力をつけていきたいと思っています。

さらに、文化の違いについても多くのことを学びました。イギリスでの生活では、日本との違いに驚くこともありましたが、それを否定するのではなく、受け入れてみることで新しい考え方を知ることができました。看護師はさまざまな人と関わる仕事なので、相手の立場に立って考えたり、違いを受け入れたりすることがとても大切だと思います。今回の経験は、そのような力を身につけるきっかけになりました。

将来は、患者さんに安心してもらえるような看護師になりたいです。そのために、知識や技術だけでなく、人としっかり関わる力も大切にしていきたいと思っています。今回の派遣で学んだことをこれからの生活に生かし、自分を成長させていきたいです。



7 豊田工科高等学校 川瀬 一熙

●ホストファミリー紹介

僕のホストマザーは、とても優しく思いやりのある人でした。初日にフィッシュアンドチップスを食べたいと言うと、一緒に買いに行ってくださいました。冷めないように「quickly!」と声をかけながら歩く姿が楽しく印象的でした。また、学校までの道を一緒に歩いて教えてもらい、その途中でバートの歴史についても話してもらいました。スーパーでは欲しいものを自由



に選んでいいと声をかけてもらい、最初は遠慮していましたが、娘のジョージアが楽しそうに商品をカゴに入れている様子を見て緊張がほぐれました。家にはジョージアのほかにモーガンなど家族が集まり、母の日には皆でにぎやかな時間を過ごしました。日本のお菓子を一緒に食べたりする時間もあり、とても楽しかったです。その後はステイシーとゆっくり過ごす時間もあり、紅茶を飲んだり落ち着いた雰囲気も心地よく感じました。自由に行動させてくれる一方で、帰りが遅いと心配してくれるなど温かい気遣いもありました。別れの際にはたくさんの伝統的なお菓子を用意していただき、最後まで優しさを感じることができました。



●現地での学び



今回の派遣を通して、イギリスの人々はとても優しく、自分の英語が不十分でも先回りして理解しようとしてくれると感じました。単語や言い回しがうまく出てこないときでも、ゆっくり聞いてくれたり、教えてくれたりする場面が多く、とても助けられました。また、本当にさまざまな人がいて、国籍や見た目も多様であることが印象的でした。その中で人と話すことや英語でコミュニケーションをとることの楽しさを強く感じました。難しさはあるものの、それ以上に会話が通じたときの喜びが大きく、もっとたくさん話したいという気持ちになりました。

一方で、自分の英語力では伝えたいことをすべて表現しきれない場面も多

く、悔しさも感じました。しかし、ジェスチャーや表情を使うことで意外と伝わることもあり、言葉以外のコミュニケーションの大切さにも気づきました。また、最初は無愛想で怖そうに感じたりする人でも、実際に話してみるととても親切で、お店を教えてくれるなど温かく接してくれることが多かったです。さらに、日本に興味を持ってきている人も多く、日本の文化について話す機会もありました。



そして、実際に現地で会話を重ねる中で、教科書や授業で学ぶよりも英語が上達していく実感がありました。うまく話せなくても伝えようとすることで、少しずつ表現の幅が広がっていく感覚がありました。全体として、現地の人々はどこか余裕があり、急いでいる様子があまり見られなかったことも印象に残っています。電車も日本のように正確ではなく、時間通りに来ないこともありましたが、それも含めておおらかな雰囲気を感じました。この経験を通して、英語力だけでなく、人と関わる姿勢の大切さも学ぶことができました。

●今後活かしたいこと

僕はイギリスでの生活を通して、自分の中の価値観や行動の基準が大きく変化したと感じています。今後は、それら経験を日常生活に活かしていくことが重要だと考えています。

まず、将来の夢のために英語学習には継続して取り組んで行きたいと考えています。現地では自分の英語が伝わった達成感があった一方で、思うように伝えたいことが話せなかった場面もあり、自分の力不足を実感しとても悔しかったのを覚えています。そのため、文法や長文読解など大学受験や資格取得のための勉強だけでなく、英会話やリスニングなど伝えることにもしっかりと重点を置き、総合的な英語力を高めていきます。また、帰国して日本にいるときも話しかけたりするなど英語を使う機会を自分から作り、イギリス滞在中に身についた恥ずかしがらず積極的に英語を話す姿勢を大切にします。



次に、日本について説明できる力を身につけたいと考えています。現地で日本の文化や習慣について質問された際、調べずには十分に答えられないことがありました。今後は日本に関する幅広い知識を身につけ、相手に分かりやすく伝えられるようになります。

さらに、日々のニュースに目を向け、世界情勢について理解を深めます。海外で生活したことで、日本だけでは見えない視点があると気づきました。自分の考えを持つためにも、継続的に情報を得る習慣を身につけます。

生活面では、日本で「当たり前」だと考えていたことを当たり前だと思わない意識をもちます。時

間を守ることや公共のマナーなどを改めて意識し、余裕をもった行動を心がけ、落ち着いて広い視野をもちながら物事に対応していきます。

また、ボランティア活動や環境への配慮にも積極的に取り組みます。イギリスでゴミの分別やエコ意識といった日常的な行動の重要性を再認識し、小さなことでも継続して実践していきたいと感じました。

最後に、現地の人々が親切に接してくれた経験を大切に、自分も同じように他者に対して親切に接することを意識します。困っている人がいれば積極的に声をかけ、行動に移していきたいです。

この経験を一時的なものにせず、今後の生活の中で継続的に活かしていくことが、自分の成長や将来の目標達成につながると考えています。



8 足助高等学校 井場 美波

●ホストファミリー紹介



私たちのホストファミリーはモニカというとても優しい方でした。緊張していて何をしたいのか分からなかった私たちに、「あなたたちの好きなように過ごしてね」と、「なにをしてもいいよ」と言ってくれたので、すぐに慣れることができました。夜ご飯の時には今日何をしたのかや、日本での暮らしなどの話をしました。モニカは日本の暮らしについて興味を持って聞いてくれて、とても嬉しかったです。モニカは寝る前にいつもハグをしてくれました。言葉は通じづらくても夜寝る前のハグは分かり合えている

気がしてとても安心できました。モニカは、とても優しく、私たちが大学に行くためのバス停まで一緒行き、乗り方や時刻を熱心に教えてくれました。それでもバスに乗れなかった私たちを車で送ってくれたり、タクシーを用意してくれたりしました。私たちはバスに乗るのが苦手で、乗り過ぎたり、違うバスに乗って家から遠いところまで行ってしまったりして、結局歩いて家まで帰ることさえありました。しかし、その出来事をモニカに話すと大声で笑ってくれました。その時、3人で大笑いしたことが本当に忘れられません。モニカは、私たちにいろんな経験を与えてくれました。散歩をするため、大きな池がある綺麗な公園に連れて行ってくれたり、一緒にバーミンガムに行き買い物をしたり、家で映画を見たり、いろんなことをしました。全てのことが本当に楽しくて、2週

間があつという間でした。モニカとお別れをする時はとても悲しかったです。次にモニカの家を訪れる時は、今回よりもっとモニカとのコミュニケーションを楽しめるように、英語の勉強を頑張りたいと思いました。

●現地での学び



私は小さい頃から海外に興味があり、今回実際にイギリスに行けることで期待に胸を膨らませながら、少し不安も抱きつつ参加しました。イギリスは景色、食べ物、暮らしに日本とは異なる部分が多々ありました。日本の生活との違いを見つけるたびに新鮮に感じました。特に印象に残ったのは、多くの家がレンガでできていることです。そんなところからも、イギリスの歴史を感じられたり、上品で落ち着いた雰囲気を感じたりすることができました。私はイギリスに行く前、イギリスに対してあまり食べ物が美味しくなかったり、イギリス人はあまり他人に興味がなかったりするようなイメージを持ってしまっていました。しかし、実際に行ってみるとスコーンやフィッシュ&チップスなどの美味しい料理がたくさんあったり、現地の

方も本当に親切な方たちばかりでお店で上手く注文ができなかった時も分かりやすくゆっくり教えてくれたりしました。この経験を通して、実際に自分が現地に行くと知ることの大切さを実感しました。さらに、日本にいるときより人との意思疎通が難しく、笑顔やアイコンタクトを意識することで相手との距離が縮まったと感じました。表情やジェスチャーで気持ちを伝えることの重要性も実感しました。私は自分の英語力に自信がありませんでした。それでも、自分の知っている単語をどうにか伝えようとすることで、相手も自分に真剣に向き合ってくれた気がします。伝えようとする意思是相手にも伝わり、それがコミュニケーションにつながることに気づきました。さらに、現地では新しい友達もできました。最初は話しかけることにとっても緊張し、何度か諦めそうになりましたが、少しの勇気を出して行動することで関係を築くことができました。この経験から、自分から一歩踏み出すことの大切さも学びました。今回の経験を今後の生活や英語学習に活かし、さらに積極的に挑戦していきたいと思います。

●今後活かしたいこと

私は今回のイギリスでの経験を、帰国後の生活や将来にしっかりと生かしていきたいと考えています。特に、言葉だけに頼らずに相手と気持ちを通じ合わせる大切さや、自分から一歩踏み出す勇気的重要性を知れたことは、これからの自分にとって大きな力になると思います。帰国後の



生活では、まず日常の中でも積極的に人と関わることを意識していきたいです。今回の経験を通して、自分から行動することで新しい関係や学びが生まれることを実感しました。だから、学校生活や日常の中でも自分から挨拶をしたり、会話を広げたりすることを心がけていきたいです。また、英語学習にもこれまで以上に力を入れていきたいと考えています。今回の経験から、完璧な英語でなくても、伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションは成り立つということを学びました。しかし同時に、もっと自分の思いを正確に伝えられるようになりたいとも感じました。これからは、単語や文法の勉強だけでなく、実際に話す練習を増や

し、自信を持って英語を使えるよう努力していきたいです。さらに、私は将来グランドスタッフとして空港で働きたいと考えています。空港にはさまざまな国からいろんな文化を持つ人々が訪れ、その中には言語や価値観の違いによって不安を抱えている方も多いと思います。そのような場面で、今回の経験で学んだ「相手に寄り添う姿勢」や「伝えようとする気持ち」が生かせると考えています。言葉が通じにくい状況でも、笑顔やジェスチャー、丁寧な対応を通して安心感を与えられる存在になりたいです。今回の経験を思い出で終わらせるのではなく、これからの自分の行動や考え方にしっかりと反映させ、成長につなげていきたいです。そして、自分から積極的に挑戦し続けることで、将来の夢の実現に近づいていきたいと思っています。



9 豊田北高等学校 岩屋 美咲

●ホストファミリー紹介

私のホストマザーは Julie White さんという女性で、初めて会った時にはハグで温かく迎えてくださいました。Julie さんは Spike という犬と3羽の鶏と暮らしており、犬のことを普段は「Spikey」と呼び、ご飯が欲しい時にクークーと鳴く時は「Squeaky」などと呼び分けていて、とても深い愛情を感じました。また、広い庭で鶏を飼いながら、自然豊かな環境の中で生活していました。通学途中も建物が少なく、緑や動物が多く見られ、日本とは異なる景色がとても印象的でした。Julie さんは植物が好きで、家にはたくさんの花や観葉植物があり、お店に入ると必ず一つ買うほどだと聞きました。その姿からも植物への強い愛情が伝わってきました。家のルールも特になく、自由に過ごすことができる一方で、温かさや安心感に満ちた家庭でした。毎日過ごす中で、Julie さんのおかげでとても素晴らしい経験をすることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



●現地での学び

今回のイギリス研修では、自分が知らない土地に飛び込むことの大変さを実感しました。言葉や環境の違いに戸惑うことも多くありましたが、その分、毎日が刺激的で新しい発見の連続でした。その中で感じたこと、学んだことは2つあります。

1つ目は、人と人とのつながりです。生活をしていく中で困ったことがあったとき、周りの人が最後まで助けてくださったことで安心して生活できました。例えば、一人でタクシーで家に帰ろうとしたとき、なかなか見つけれられず不安でしたが、先生方が集まって最後まで助けてくれました。これまでの自分の経験とは異なり、こうしたサポートを受けたことで、人と人とのつながりの大切さを強く感じました。また、パブに行ったとき、ホストマザーは店員さんだけでなく、通行人にも挨拶し、自然に会話をしていました。こうした日常的な関わり方から、人との距離の近さを感じました。人と人とのつながりが生活の中に根付いていることを実感し、関係を築いて行くことの大切さを学びました。

2つ目は、人の温かみです。困ったときに助けてくれる人々の存在や、日常の中での気遣いを通し

て、温かさを感じました。タクシーの運転手さんが私を日本人だと気づき、日本が好きだということをとくさん話してくれたことは、とても印象に残っています。また、教会などで出会った年上の方々も優しく声をかけてくれ、自然に会話をすることができました。温かく接してくださったことがとても嬉しく、自分からも話してみようと思うようになり、多くの人と積極的に会話をするきっかけでもありました。これまでの自分の経験では、年齢の違う人との間に少し距離を感じることもありましたが、そうした壁をあまり感じることなく関わることができたことも新しい発見でした。こうした温かみは、これまでの生活とは異なる形で感じることができ、異文化ならではの学びでした。

この経験を通して、人と人とのつながりや人の温かみの大切さを感じることができました。それぞれの文化に違いはありますが、その中で新しい価値観や関わり方に触れることができたことは、自分にとって大きな成長につながりました。さまざまな価値観に触れることで視野が広がり、自分自身の成長を実感することができました。

●今後活かしたいこと

今回のイギリス研修を通して学んだことは、人とのつながりや温かさの大切さ、そしてそれに気づくために必要な「挑戦する姿勢」です。

派遣前は、旅行や修学旅行でも基本的に親や先生について行くことが多く、自分から行動する機会はあまり多くありませんでした。しかし今回は初めて一人でホームステイをし、空港での手続きから現地での移動まで、自分の判断で行動する必要がありました。慣れない環境や英語でのやり取りに対する不安や緊張は大きかったですが、失敗を恐れずに一歩踏み出すことで、多くの人と関わる事ができ、毎日が非常に濃く充実したものになったと感じています。

知らない環境に飛び込むことは簡単ではありませんでしたが、その中で自分から行動することでしか得られない経験が多くあることも実感しました。分からないことをそのままにせず質問したり、自分から声をかけたりすることで少しずつ状況を乗り越えることができ、行動することの重要性を強く感じました。

また、今回の経験を通して、知らない環境に飛び込むことの大変さと同時に、その楽しさにも気づくことができました。事前のイメージ以上に、実際の生活の中に学びが多くあることを実感しました。

こうした経験を通して、挑戦することで広い視野を持つことができるということを強く感じました。最初は不安が大きくても、一歩踏み出すことで見える景色が変わり、自分の考え方や行動も広がっていくことを学びました。

今後は、今回の経験を生かし、学校生活の中でも積極的に行動していきたいです。例えば、海外からの派遣生徒が来た際には、自分が感じた不安や緊張を思い出し、安心して過ごせるように積極的に声をかけたり支えたりしたいです。また、海外交流の機会にも積極的に参加し、自分から関わることでより多くの価値観に触れていきたいです。さらに、英検などの資格取得にも取り組み、英語力を高めていきたいと考えています。そして大学では国際関係や異文化理解について学び、将来は海外の人と関わる仕事にも挑戦したいです。

今回の研修で感じた人の温かさはとても印象的であり、自分が安心して過ごすことができた大きな理由でもありました。今後は海外の人と接する際に、自分が感じたような安心感や温かさを相手

にも感じてもらえるように接していきたいです。そのために、困っている人がいれば自分から積極的に声をかけ、助け合える関係を築いていきたいと考えています。



10 豊田南高等学校 鈴木 心菜

●ホストファミリー紹介



私がお世話になったホストファミリーは Monica HENCHCLIFF さんでした。モニカは、多くの人とのつながりを大切にする温かい人でした。一緒に外出した際には、すれ違う人々から次々と声をかけられており、その様子からモニカの人柄や交友関係の広さが伝わってきました。また、外食の際に食事をごちそうしてくれたり、お土産を用意してくれたり、と、細やかな配慮が印象に残っています。私たちがバスを間違えた際の出来事を伝えると、一緒に笑って穏やかに受け止めてくれ、安心して過ごすことができました。さらに、英語での会話が不十分な私に対しても、ゆっくりと分かりやすく話し、理解しようとしてくれました。BSDC の生活についても関心を持って質問をしてくれて、会話をする機会をたくさん作ってくれました。カルチャーショーの際には、私の話を熱心に聞き、たくさん褒めてもらったこともとても嬉しくて印象に残っています。就寝前には毎日ハグを交わすなど、家族の一員として温かく接してもらったことも心に残っています。最終日の別れの際には花と手紙を渡すと涙を流してくださったことから、深い関係を築くことができたと感じ、本当に嬉しかったです。2週間毎日寄り添ってくれたモニカに心から感謝しています。

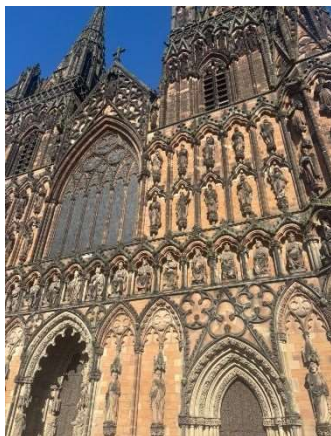
●現地での学び

私にとって忘れることのできないダービーシャーでの2週間の生活で私は多くのことを学びました。特に強く感じたのは、「通じるかどうかは英語力だけで決まるのではない」ということです。出発前の私は英語に自信がなく、間違えないように話すことばかりを意識し、自分から話しかけることをためらっていました。しかし、実際に現地で生活してみるとホストファミリーや現地の方々は、私の拙い英語でも最後まで聞き、理解しようとしてくれました。このことから正確に話すこと以上に、自分から伝えようとする姿勢が大切であると気づきました。この気づきは、行動の変化にもつながりました。



最終日に訪れたベルパースクールでは、それまで受け身だった自分から一歩踏み出し、自分から話しかけることで友人を作ることができました。自ら行動することで新たな関係が生まれることを実感するとともに、もっと早く行動していればよかったという後悔も残りました。この経験から、失敗を恐れて行動を控えるのではなく、積極的に関わろうとする姿勢の重要性を学びました。また、ロンドンやリッチフィールド大聖堂を訪れた際には、実際にその場に立つことでしか得られない学びを得ました。写真や映像で見ていた建物も、実際に目の前にすると大きさや細部の装飾、周囲の雰囲気が大きく異なり、「知っているつもり」と「実際に理解していること」の違いを強く実感しました。さらに、歴史的な建物が日常の中に自然に存在している様子から、日本との文化の違いについても考えることができました。また、実際にその場を訪れることで、現地の人々の生活や価値観にも触れることができ、教科書だけでは得られない学びがあると感じました。私はこの2週間で言葉だけでなく行動すること、そして自分の目で確かめることの大切さを学ぶことが出来ました。

●今後活かしたいこと



2週間イギリスのたくさんの人と交流し、自分から関わることで相手とのつながりが生まれ、言葉が十分でなくても意思が伝わることを実感しました。この経験から、行動することの大切さを強く感じました。帰国後の生活では、この経験を一時的なものにせず、日常の中で少しずつ実践していきたいと考えています。これまでのように相手を待つのではなく、自分から関わろうとする意識を持ち、できる範囲で行動に移していきたいです。また、英語についても正確さだけにとらわれるのではなく、伝えようとする姿勢を大切にしながら学習を続けていきたいと考えています。さらに今回の経験を通して、さまざまな文化や価値観に触れること

の重要性を実感しました。現地の生活だけでなく、一緒に留学した仲間との関わりの中でも多くの学びがありました。それぞれが異なる進路や目標を持っており、自分の知らなかった選択肢について知ることができました。これまで明確な進路を決められていなかった私にとって、新たな視点を得る貴重な機会となり、自分の視野が広がったと感じています。今後は、この広がった視野をもとに、自分に合った進路について主体的に考えていきたいです。また、現地での生活の中で、日本と

の価値観の違いについても強く印象に残りました。大学を訪れた際、私たちは周囲と異なる外見であったにもかかわらず、特別視されることなく自然に受け入れられているように感じました。一方で、日本で同じ状況であれば周囲の視線が気になる場面も多いのではないかと考え、文化や社会の違いを実感しました。この経験から、周囲の目を過度に気にするのではなく、自分らしさを大切にする事の重要性についても考えるようになりました。将来に向けては、今回の経験を通して得た考え方を大切にしながら、さまざまなことに挑戦していきたいです。そして、機会があればもう一度留学をし、今回よりもさらに積極的に現地の人々と関わりたいと考えています。次はより自分から行動し、多くの文化や価値観に触れることで、自分の視野をさらに広げていきたいです。今回の経験は、自分自身の成長だけでなく、これからの将来の考え方にも大きな影響を与えるものとなりました。今後はこの経験を生かし、自分から行動しながら、自分の可能性を広げていきたいと考えています。



1 1 豊田高等学校 安部 玖美

●ホストファミリー紹介



私がお世話になったホストファミリーは、南アフリカ出身のバーバラ・ダイヤモンドさんでした。親しみを込めて私達はバーバラと呼ばせていただきました。

バーバラは3人の子供がいますが、上の二人は家を出て生活しているそうです。

現在は末っ子の十三歳のザラと二人暮らしをされています。バーバラは金曜日から月曜日まで看護師の仕事をしており、家にいない事が多いため、私達は鍵を預けられて、基本的には自由な行動を許可されていました。

最初は彼女のアフリカなまりの英語に苦戦しましたが、毎日帰宅後に一日の出来後を話していくうちに、少しずつですが、彼女の話していることを理解することが出来るようになりました。仕事で忙しい中、アフリカの料理を何度も作ってくれました。見た事のない料理にビックリした時もありましたが、食べてみたらとても美味しく感動しました。また時間のある時には、車で学校まで送ってくれたり、トイレを詰ませた時には、嫌な顔せず、直してくれたりしました。

おおらかな人柄に私は何度も助けられました。

●現地での学び

私は今回の派遣で初めてイギリスに行く事が出来ました。私は長年イギリスに対して強い憧れを抱いていました。イギリスに着き最初に感じた事は、英語しか聞こえてこないことに対する不安でした。バスに乗り、学校まで向かう街並みは日本の建物とは全く異なり、文化の違いを感じました。

私は今回の派遣で沢山のことを学びましたが、大きく二つのことを学びました。

一つ目は、イギリスの人達の笑顔と気さくに声をかけてくれるコミュニケーションの高さです。私は頻りにバスを利用していましたが、適切なバスに乗ることができているのか、常に不安でした。そんなに不安が顔に出ていたのかも知りませんが運転手や他の乗客の方が「何処に行くの」「あっているよ。ボタン押してあげるね」と優しい声をかけてくれました。街を歩いていると多くのイギリス人が気さくに声をかけてくれました。そのお陰で私も、自然と笑顔で会話ができるようになりました。



二つ目は、異文化による考え方や生活スタイルの違いです。例えば、ホームステイ中の、受け入れ側の姿勢です。私の家もホームステイを受け入れた事があります。その時は、家族皆で精一杯おもてなしをしました。私は、ホームステイはずっと一緒に過ごすことだと思い込んでいました。しかし、私がホームステイしたバーバラの家族は、仕事やお祈りで忙しく、なかなか一緒に過ごす時間がありませんでした。最初に家の鍵を渡され、食事も自由に許可された時は、驚いたとともに、一種の不安を抱きました。初めはなかなか自分から行動をすることができませんでしたが、今回のホームステイを有意義なものにしたいと思い、家族との会話や家事の手伝いを積極的に行うようにしました。

バーバラの家族では基本的に、自分の事は自分で行き、困った時に手助けをするというスタイルをとっていました。

このホームステイを通じて行動力や自立心そして、その環境に馴染む柔軟性を学びました。大変なことも多かったですが、大切なことを学べる二週間でした。

●今後活かしたいこと

今回のホームステイは、沢山の方々の支えや協力があったからこそ経験することが出来ました。こういった方々へ、まず感謝を述べたいです。今回一緒に派遣に参加した方々や先生方などに出会えたことにも感謝しています。

人との出会いをこれまで以上に大切にしていきたいと思います。

そして、イギリスで経験したことや学んだことを沢山の人に知ってもらえるように、活動をしていきたいと考えています。具体的には、高校生ボランティアに参加する、などです。私は高校生ボランティアに去年参加していました。今後もそのような場に沢山参加して派遣の活動などを地域の人々に知ってもらいたいと思います。

豊田市には、沢山の外国籍の方が住んでおり、また沢山の人が海外に出て働いています。そのためいろんな場所で、英語を活用できる場があると思います。まだまだつたない私の英語力ですが、これからも沢山英語を勉強して活動出来る場に積極的に参加したいとおもいます。

私は、今回の派遣でいつか OB としてダービーシャ派遣される子供たちを支える立場になればと考えています。

また、日本ではまだまだホームステイという活動はあまり浸透していないのが現実です。お金に関してや、他人と家を共有すると言う文化に弱い、責任感が強く気軽にやることのできないなどといった沢山の問題点が多いと思いますが、外国から豊田市に沢山の子供たちを迎える事が出来るよう、体制を整えていく活動もしていきたいと思っています。

1 2 豊野高等学校 大西 海鷲

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーはホストマザーの Stacey です。Stacey は非常に親しみやすく温かい人柄で、不安でいっぱいだった私を優しく受け入れてくださいました。私にとって誇りに思える存在です。Stacey は多くのイギリス料理を振る舞ってください、帰宅するといつも温かい食事を用意して待っていてくださいました。休日には娘さんや息子さん、お孫さんが集まり、日本のお菓子を囲んで楽しい時間を過ごすことができました。また、ご長女のご主人がパキスタンにゆかりのある方で、本場のパキスタンカレーをいただくなど、異文化に触れる貴重な機会にも恵まれました。さらに、母の日にはご実家へ連れて行っていただき、現地の方々と交流し、多くの学びを得ることができました。加えて、Calke Abbey にも案内していただき、歴史に触れながらピクニックも楽しめました。Stacey と出会えたことで、充実した留学生活を送ることができました。



●現地での学び



私にとって初めて異国の文化や生活を体験できた、非常に貴重な 10 日間のイギリス派遣でした。私がこの派遣に応募した理由は、中学 2 年生と 3 年生の時にダービーシャーからの留学生を迎え、外国の方と交流することに興味を持ったからです。当時は英語が話せず、コミュニケーションが取れないのではないかと不安から、外国の方と話すことに恐怖を感じていました。しかし実際に交流してみると、英語が完璧でなくてもジェスチャーや簡単な単語を使うことで、十分に意思疎通ができることに気づきました。この経験をきっかけに英語力向上を目標とし、日常的に英語に触れるよう努力を重ねました。

実際にイギリスを訪れ、日本との文化や生活の違いを数多く実感しました。特に印象に残ったのは、授業において生徒一人ひとりが自分の考えを持ち、積極的に発言している点です。3月23日に訪れた Belper School では、同年代の生徒が自信をもって意見を述べる姿に大きな刺激を受けました。また、イギリスでは雨の日でも傘をささない人が多いことにも驚きました。気候の変化が激しいため、雨の中でも日常生活を続ける姿が印象的でした。

さらに、現地での生活を通して、自分の思いをあきらめずに伝え続けることの大切さを学びました。ホストマザーとの会話では、言いたいことがすぐに英語で表現できない場面も多くありましたが、相手が最後まで耳を傾けてくれたことで、伝えようとする姿勢の重要性を実感しました。



●今後活かしたいこと

今回のイギリス派遣を通して得た学びを、今後の生活や将来に活かしていきたいと考えています。まず、英語で自分の考えを最後まで伝えようとする姿勢の大切さです。現地での生活では、自分の言いたいことがすぐに英語で表現できない場面も多くありましたが、あきらめずに伝えようとすることで、相手に理解してもらえただけでなく、新しい表現や単語を学ぶ機会にもつながりました。この経験から、語学力だけでなく、伝えようとする意欲が非常に重要であると実感しました。

また、授業において生徒が積極的に発言している姿にも大きな影響を受けました。自分の考えを持ち、それを自信をもって発言することは、学びを深めるうえで重要であると感じました。これまでの自分は発言に対して消極的な面がありましたが、今後は高校の授業において、自分の考えを積極的に共有し、英語を使う場面以外であっても主体的に参加していきたいと考えています。

将来の目標は、海外の大学へ進学し、語学力を高めながら、海外の文化を吸収し、自分を成長させることです。そこで身についた力を活かし、将来は通訳や客室乗務員として、英語を使いながら多くの人と関わる仕事に就きたいと考えています。また、英語教育にも関心があります。将来的には、子どもたちが英語を話すことに不安を感じないような学習環境づくりや、海外の人々と交流する機会を増やす取り組みにも関わっていききたいと考えています。

今回の経験で得た、最後まであきらめずに伝える力や多文化を理解する姿勢を大切にしながら、今後の生活や将来に活かし、自分の理想とする生き方の実現に向けて努力を続けていきます。今回の派遣は、多くの方々の支えによって実現した貴重な経験です。心より感謝しています。

13 杜若高等学校 香川 絢

●ホストファミリー紹介



私のホストファミリーは、マザーの Rachel、ブラザーの Luke、猫の Jess、そしてウサギの Floppy です。Rachel は明るくフレンドリーで、いつも笑顔で迎え入れ、たくさん話しかけてくれました。Luke は同じ 16 歳で、事前にポケモンが好きと聞いていたため日本のポケモンカードをプレゼントしました。とても喜んでくれました。また、料理が得意で、焼いてくれたシヨ

ートブレットの味は今でも忘れられません。Rachel はスペイン語とドイツ語の先生で、日本のことを話すとイギリスだけでなく他国との違いも教えてくれました。また、これまでに 8 人ほどのホームステイを受け入れており、過去の生徒の話も聞かせてくれました。さらに、私が英語の発音に

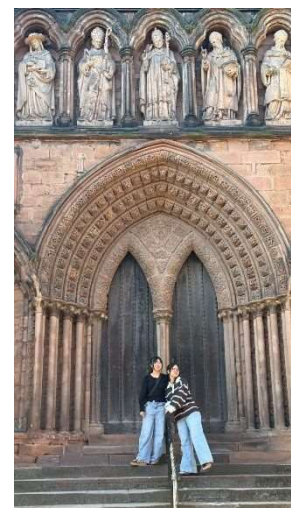


自信がないと相談すると、優しく発音のレッスンをしてくれ、自信を持てるよう励ましてくれました。二人とも、私が英語を理解できない時にはゆっくり話し、丁寧に説明してくれました。このような温かい家庭でホームステイできたことに心から感謝しています。



●現地での学び

今回の派遣を通して、私は多くのことを学びました。特に印象に残っているのは、学校で学んでいたアメリカ英語と、実際に現地で使われているイギリス英語との違いです。単語の意味やイントネーション、発音が異なるものが多く、最初は戸惑う場面もありましたが、現地の人々が話す英語に耳を傾けるうちに少しずつ慣れていきました。教科書だけでは学べない生きた英語に触れることができ、とても貴重な経験となりました。さらに、現地には日本のアニメが好きで多く、自分が日本人だと伝えると嬉しそうにアニメや知っている日本文化について話してくれることが何度もありました。現地の学生がアニメの話をしてくれ、日本のアニメを知っていることを嬉しく感じました。さらに、「こちらではどのようなことを学んでいるのか」と話を広げてくれたことも印象に残っています。その姿を見て、自分の国の文化が海外でも愛されていることを実感し、日本人であることに誇りを持つことができました。さらに、イギリスでは 16 歳でも家族と一緒に飲酒が認められているため、同じ年の Luke がお酒を飲んでいる姿を見て、日本との文化や価値観の違いを強く実感しました。このように、実際に現地で生活することでしか気づくことのできない違いを体験できたことは、とても印象に残っています。そして、多くの教会に無料で入ることができることにも感動しました。歴史ある建物を身近に感じながら自由に見学できる環境に、日本とは異なる魅力を感じました。今回の経験を通して、語学だけで



なく文化や価値観の違いについても深く学ぶことができ、自分の視野が広がったと感じています。

●今後活かしたいこと

現地で実際に英語を使って生活する中で、学校で学ぶ教科書英語だけでは伝わらない場面が多くあることを実感しました。日常会話では、教科書には載っていない自然な表現やスラングが多く使われており、それらを理解することで会話がより楽しく、深いものになると感じました。そのため、今後は文法や単語だけでなく、実際に使われる自然な英語表現についても積極的に学び、日本語を話す時のように自由に英語を使えるようになりたいです。

また、今回の派遣では、学校で学んでいたアメリカ英語と現地で使われていたイギリス英語との違いを実際に体感し、同じ英語でも国や地域によって発音や表現が異なることを学びました。この経験から、アメリカ英語だけでなく、さまざまな種類の英語に興味を持って学んでいきたいと感じました。さらに、自分の発音に自信が持てず悩んだ経験もあったため、これからは英語を聞くだけでなく実際に話す機会を増やし、発音にも自信を持てるよう練習を続けていきたいです。

加えて、今回の派遣では文化や価値観の違いに多く触れたことで、自分の考え方や価値観を広げることができました。日本では当たり前だと思っていたことが海外では違うことも多くあり、国や宗教によって文化や習慣が大きく異なることを学びました。この経験を通して、自分とは異なる価値観を知り、それを受け入れることの大切さを実感するとともに、自分の考え方を見直すきっかけとなりました。実際に異なる文化に触れたことで、自分の価値観も大きく変化し、より広い視野で物事を考えることの大切さを学びました。今後は、広い視野を持ち、多様な価値観を尊重できる人になりたいです。

さらに、私自身が今回ホームステイを通して多くの温かさや学びを得たことから、将来は自分もホームステイの受け入れや留学生との交流に積極的に挑戦したいと強く思っています。私がしてもらったように、今度は自分が海外から来た人を支え、日本の文化や魅力を伝えられる存在になりたいです。そして、この経験を自分の成長につなげ、英語力と国際感覚をさらに磨き、将来は国際的な場で活躍できる人材になりたいです。

14 豊田大谷高等学校 織田 陵慧

●ホストファミリー紹介



私のホストファミリーは、マザーとファザー、そして犬一匹で、四階建ての家に住んでいました。マザーは散歩やランニングが好きで、日常的に体を動かすアクティブでエネルギーが豊富な方でした。いつも明るく接してくれ、一緒に過ごす時間がとても楽しかったです。ファザーは毎食ご飯を作ってくれ、どの料理もとても美味しく、印象に残っています。家にはたくさんの本があり、とても知的な雰囲気が漂っていました。また、リビングでは常にクラシック音楽が流れており、ピアノやギターも置かれていて、音楽に囲まれた生活がとても魅力的でした。犬はとても大きく、人懐っこくてすぐに近寄ってくる可愛らしい存在でした。嬉しそうに振る尻尾が当たると少し驚くこともありましたが、それも含め

て忘れられない思い出です。このような温かい環境の中で過ごせたことにとっても感謝しています。この経験は、これからの自分にとって大きな財産になると感じました。

●現地での学び

二週間の留学を通して、私が最も強く感じたことは、「会話ができたときの楽しさ」です。最初は、相手が何を言っているのかほとんど聞き取ることができず、「OK」や「Thankyou」といった簡単な言葉でなんとかやり過ごしていました。また、同じ家に住んでいる生徒に助けをもらうことも多く、自分の英語力の足りなさを実感しました。



しかし、買い物の場面では、いわゆる「出川イングリッシュ」のように、知っている単語やジェスチャーを使って、自分なりに伝えようと努力しました。すると、完璧な英語でなくても自分の思いが相手に伝わり、会話が成立したときには大きな喜びを感じ、自信にもつながりました。この経験から、大切なのは完璧さではなく、伝えようとする姿勢であると学びました。

また、現地の人々はとてもフレンドリーで、積極的に話しかけてくれました。そのおかげで、自分からも話してみようという気持ちが生まれました。さらに、服装や髪型などで一人ひとりが自分の個性を自由に表現している様子も印象的で、多様性を尊重する文化を肌で感じることができました。

この留学を通して、英語を使って人とつながる楽しさを知ることができました。また、完璧でなくても自分の言葉で伝えようとする事の大切さも学びました。さらに、現地で出会った人々の温かさや、多様な価値観に触れたことで、自分の視野が大きく広がったと感じています。今後はこの経験を活かし、英語の学習により一層力を入れていきたいと考えています。特に、聞く力と話す力を伸ばし、より自然な会話ができるよう努力していきたいです。そして、将来は海外の人とも自信を持って意見を交換できるようになりたいと思っています。また、今回の経験を忘れず、どんな場面でも積極的に挑戦する姿勢を大切にしていきたいです。そして、この経験を通して得た自信を大切に、これからの挑戦にも前向きに取り組んでいきます。



●今後活かしたいこと

今回の留学経験を踏まえ、今後は英語力の向上と、将来海外で活躍できる力を身につけることに重点的に取り組んでいきたいと考えています。将来はトヨタ自動車に就職し、転勤などを通して海外で働くことを目標としているため、その実現に向けて必要な力を計画的に伸ばしていきたいです。まず、英語力の基礎を確実に固めるために、単語や文法の学習を継続して行っていきます。これまでの自分は感覚的に英語を使うことが多かったため、今後は基礎的な知識をしっかりと身につけ、より正確に表現できる力を養いたいと考えています。また、リスニング力を高めるために、英語の映画や音楽、動画などを日常的に取り入れ、英語に触れる時間を増やしていきたいです。



さらに、実際に英語を使う機会を積極的に増やしていきたいと考えています。学校の授業だけでなく、オンライン英会話や外国人との交流の場などを活用し、自分の考えを英語で伝える練習を重ねていきたいです。留学中に感じたように、完璧な英語でなくても伝えようとする姿勢が大切であるため、間違いを恐れずに発言することを意識して取り組んでいきます。

また、将来海外で働くためには、英語力だけでなく、異文化を理解する力も必要であると考えています。そのため、海外の文化や価値観について学ぶ機会を増やし、さまざまな考え方を受け入れる姿勢を身につけていきたいです。ニュースや書籍、インターネットなどを活用し、世界の出来事にも関心を持ちながら視野を広げていきます。

これらの取り組みを継続することで、将来トヨタ自動車で海外勤務の機会を得た際にも、自を持って行動できる力を身につけていきたいです。そして、言語や文化の違いを越えて多くの人と関わり、社会に貢献できる人材へと成長していきたいと考えています。今回の留学で得た経験や気づきは、自分にとって大きな財産であり、今後の人生においても大きな支えになると感じています。これから先、困難に直面することがあっても、この経験を思い出し、前向きに乗り越えていきたいです。

また、自分の可能性を広げるためにも、さまざまなことに積極的に挑戦し続けていきたいと考えています。常に向上心を持ち、自分自身を成長させ続けることで、将来の目標を実現できるよう努力していきます。今後もこの経験を大切に、自分の成長につなげていきたいです。

引率教諭 豊田東高等学校 鬼頭 伴明

この度のダービーシャー高校生派遣プログラムにおいて、引率教員として参加させていただき、大変貴重な経験を得ることができました。生徒たちの成長を間近で見守ることができたことに感謝し、以下の通り報告いたします。

1. 安全管理および引率について

出発前の綿密な計画と、豊田市役所ならびに関係各位の多大なるサポートのおかげで、移動から現地滞在、そして帰国に至るまで、大きな事故やトラブル、体調不良者を出すことなく無事に全日程を終えることができました。今回の引率において特に心がけたのは、生徒の自主性を尊重しつつ、細やかな健康観察と心理的なサポートを行うことです。慣れない環境での疲れが出やすい時期には、生徒一人ひとりとコミュニケーションを取り、些細な体調の変化や不安を見逃さないよう努めました。生徒たち自身も自己管理の意識を高く持って行動するなど、集団としての規律をしっかりと守ってくれたことが、安全で円滑なプログラム運営に繋がったと感じています。

2. 現地での生徒やホストファミリーとの交流の様子

滞在中、生徒たちの主体性と能力の高さに最も驚かされたのが、現地校で行われた「カルチャーシ

ヨー」です。事前の準備段階から生徒同士で活発に意見を交わし、自主的に練習を重ねる姿が見られました。本番では、大勢のネイティブスピーカーを前にしても臆することなく、堂々とした態度で素晴らしい発表を行いました。特に、現地の学生やホストファミリーに日本のゲームや書道を体験してもらう活動では、相手の反応を見ながら、英語で丁寧にわかりやすく説明をしていました。ホストファミリーも生徒たちを家族の一員として温かく迎え入れてくださり、週末の生活や日々の対話を通じて、お互いの文化を深く理解し合う心温まる交流が実現していました。

3. 生徒の将来の選択肢を広げるきっかけとして

今回のダービーシャーでの経験は、間違いなく生徒たちの将来の選択肢を大きく広げる強力なきっかけになったと確信しています。言葉や文化の壁を越えて「自分の思いが相手に伝わった」という成功体験は、生徒たちに計り知れない自信を与えました。カルチャーショーでの堂々とした振る舞いや、自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿勢は、今後の英語学習に対するモチベーションを飛躍的に高めるものです。さらに、多様な価値観に触れたことで、海外進学やグローバルに活躍する職業への関心を抱き始めた生徒もあり、本プログラムが彼らのキャリア形成において非常に有意義な第一歩となったことを強く実感しております。

最後に、本事業に関わってくださったすべての方々に、心より深く感謝申し上げます

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student
in English

Rino Furuhashi

I had many memorable experiences during my stay in the UK, especially when spending time with my host family. Everything was different from Japan, such as the language, culture, and daily life, and I learned many new things. Through this experience, I became more interested in other cultures, such as different types of food and fashion. One of the most special moments was the dinner at the culture show. I sat at the same table as BSDC students. At first, they spoke very fast, so I couldn't understand them well. However, I tried to respond little by little and join the conversation. Later, they taught me some hand signs, and we enjoyed spending time together. I also remember when I was at a bus stop and didn't know which bus to take. The bus driver kindly told me which bus I should get on, so I was able to take the correct bus. Through these experiences, I learned that it is important to try to communicate, even if it is difficult. I also became more confident in speaking English. I will never forget this time of my life.

Mayuka Sato

There are two things that impressed me during my training in the UK. First, I was impressed by the kindness of local people. My host mother, Lisa, was very kind and talked to me gently even when I was nervous. She often asked me, "Are you having fun?" and cared about me, which really supported me. The university students were also very friendly. They talked to me about their families, friends, and what they knew about Japan. I really enjoyed talking with them, and I was glad that I had the courage to speak to them. People in the town were also very kind. Shop staff and customers waved at us when they noticed us. Once, when we didn't know where the bus stop was, we asked a man for help, and he kindly took us there. It really helped us. Second, I noticed a difference in values. In Japan, appearance is often emphasized. When I talked about this with my host family, they told me that in the UK, people value inner beauty more than appearance. They said that I was beautiful not only on the outside but also on the inside, which made me very happy. I felt that people in the UK have a very kind way of thinking.

Juri Kawai

During my two-week stay in Derbyshire, everything I experienced was fresh and exciting. Before leaving Japan, I heard that British food was not very good, but this stereotype was completely overturned in a good way. The traditional meals baked beans and meat pie prepared by my host mother, Lisa, were incredibly delicious.

What impressed me the most was the warmth and open-mindedness of the local people. When I struggled to calculate British coins at a shop, the clerk and the customers waiting behind me smiled warmly and said, "Don't worry about it." Also, I loved the custom where everyone said thank you to the bus driver when getting off.

At first, I was very anxious about my English skills, but through various school exchanges and daily life, I realized that we can connect with each other beyond language and cultural barriers if we have the courage to express ourselves. This wonderful experience has broadened my horizons and changed my perspective on life.

Yuzuki Matsuzaki

I had various experiences during my time abroad. I had a great time every day, eating foods I had never tried before and playing games with my host family. I was surprised by the fluffy texture of the rice in the UK. The lasagna and homemade jam made by my host mother were delicious. Making scones at BSDC is my strongest memory. It was my first time having afternoon tea, and it was so good that I had extra cup of tea. I was also happy that I could talk with many students at the university. I would like to share what I learned and experienced during this program with my family, friends, and many other people.

Hana Sakaguchi

What struck me most about my trip to the UK was the depth of affection people have for animals. Almost every household has a pet, and I felt that there were particularly many dog owners. I often saw dogs being walked in the streets, which really conveyed how close the relationship between people and animals is. Whilst out walking, I'd see cats peering out of windows, and I even came across houses with large parrots. Furthermore, it was striking to see how many people had their pets as their smartphone lock screens or icons, clearly treating them as cherished members of the family. If you're striking up a conversation with someone in the UK for the first time, bringing up the topic

of pets is a sure-fire way to break the ice.

Miyu Iwatsuki

One of the most impressive experiences in the UK was visiting a factory and staying with my host family. At the factory, I was surprised that people worked very carefully and efficiently. I could not understand everything in English, but I tried to listen and understand as much as I could.

Staying with my host family was also a great experience. At first, I was nervous about speaking English. However, they were very kind and spoke slowly, so I felt more comfortable. I was happy that they tried to understand me even when my English was not perfect.

From these experiences, I learned that it is important to try and not be afraid of making mistakes. I think this experience will help me in the future.

Itsuki Kawase

The most memorable part of my experience in England was the kindness of the people there. It was my first time to foreign country so I really tried to improve my English by actively starting conversations with others. Looking back, I might have surprised some people by talking to them suddenly. However, everyone I spoke to was very kind and willing to talk with me.

Through these conversations, I felt not only their kindness but also their calm and open attitude. Even people who looked a little intimidating at first turned out to be very friendly when I actually talked to them. They listened to me carefully and taught me many things, which made each interaction special.

This experience made me realize how enjoyable it is to communicate with others. It also made me want to talk with more people, not only abroad but also in Japan. I believe this was a very valuable and meaningful experience for me.

Minami Iba

I have wonderful memories of my visit to the UK, and one of them is especially strong for me.

That is my visit to Lichfield Cathedral. The stained glass was so beautiful that I could feel the history of the UK. This was a special experience because I can't experience it in Japan.

I was also surprised by Fish and Chips. Fish and Chips, which is one of the traditional British meals, was much better than I expected. Moreover, I ate Kit-Kat, which was richer in chocolate and different from what I usually eat in Japan.

I also visited Big Ben, which is a World Heritage site and made a strong impression on me. I had seen it in pictures, but I was so moved to see how big and beautiful it is in real life. I will never forget these memories and my experiences in the UK.

Misaki Iwaya

During my stay in the UK, the first thing I noticed was that people felt very open, and it was easy for conversations to happen in daily lives. There were many places where people gather, such as pubs and churches. On my first day, I visited a church where people were sitting together, drinking tea, and enjoying conversations. I was able to see how easily people talk with each other in everyday situations, and I also enjoyed talking with people.

On the other hand, I also noticed big differences in daily lives. One of the most surprising things was how early shops closed. Some shops closed as early as 3 p.m., and even by around 6 p.m., many were already closing or getting ready to close. Compared to Japan, daily lives seem very different, and at first I was a little surprised.

I was also impressed by the amount of nature outside the cities, with many areas having very few buildings. I often saw animals, and it felt like nature was very close to everyday life, even in a country with cities and towns.

In addition, I noticed that dogs are often allowed in public places. I saw them on trains and even inside shops, and it felt very normal that people and animals share the same spaces in daily li

Overall, I felt that the UK is a place where it is easy to talk with others, while at the same time daily lives and the relationship with nature are quite different from Japan.

Kokona Suzuki

During my stay in the UK, I always felt a great sense of fulfillment and enjoyment. I believe this was because I was surrounded by scenery completely different

from that of Japan, such as the rich natural environment where I could easily see sheep and horses, as well as rows of red-brick houses.

Above all, I think it was because my host family warmly welcomed me. The time we spent talking together over meals and tea, watching quiz shows, and playing games made me feel very relaxed. I was also very moved when they tried to experience Japanese culture by eating miso-nikomi udon with chopsticks. Although they were not used to using chopsticks, they did not give up and continued using them until the end, which made me very happy. Every moment I spent with my host family is a precious memory for me.

I also gave Japanese matcha sweets to students at BSDC, and they said they were delicious and happily talked with me. Seeing them enjoy something from Japan made me very happy. Through this experience, I truly realized how delicate and wonderful Japan is. All of these experiences gave me a deep sense of fulfillment.

Kurumi Abe

What impressed me most about Derbyshire was friendly local people, who welcomed me like a real family during my homestay, and it became my cherished memory.

The stained glass windows and exteriors of Chatsworth House and Litchfield Cathedral, along with the vast gardens, were breathtaking. I was truly moved and soothed by the beauty of the buildings and the townscape.

Kaiga Onishi

During my study abroad in the UK, I was placed in an environment where I had to communicate entirely in English, as Japanese was not understood. This situation greatly improved both my listening and speaking skills. At first, I found it difficult to communicate, but my host family constantly supported me by engaging in conversations and teaching me British slang and useful experience, I sometimes felt as though I had become a part of British culture.

One of the most significant aspects I noticed was the difference in cultural norms. Some manners were completely opposite to those in Japan, which initially caused confusion. However, this encouraged me to develop a strong interest in cultural diversity and to

respect

different ways of thinking. I was particularly impressed by the way people expressed their opinions. At my language school, students actively shared their ideas, whereas in Japan, I feel that fewer students speak up in class. This difference left a strong impression on me and motivated me to express my own thoughts more confidently.

Additionally, I was surprised by how naturally people say “thank you” and “you’re welcome” in everyday interactions. I also became aware of differences between American and British English, especially in pronunciation and vocabulary. Overall, this experience was extremely valuable and contributed greatly to my personal growth and future goals. I would like to make use of this experience in my future studies.

Aya Kagawa

During my stay in the UK, I always felt a great sense of fulfillment and enjoyment. I believe this was because I was surrounded by scenery completely different from that of Japan, such as the rich natural environment where I could easily see sheep and horses, as well as rows of red-brick houses.

Above all, I think it was because my host family warmly welcomed me. The time we spent talking together over meals and tea, watching quiz shows, and playing games made me feel very relaxed. I was also very moved when they tried to experience Japanese culture by eating miso-nikomi udon with chopsticks. Although they were not used to using chopsticks, they did not give up and continued using them until the end, which made me very happy. Every moment I spent with my host family is a precious memory for me.

I also gave Japanese matcha sweets to students at BSDC, and they said they were delicious and happily talked with me. Seeing them enjoy something from Japan made me very happy. Through this experience, I truly realized how delicate and wonderful Japan is. All of these experiences gave me a deep sense of fulfillment.

Ryoe Oda

One of the most impressive things during my stay was how friendly the local people were. At first, I could not understand much English, and I felt very nervous. However, they spoke to me kindly and tried to understand my words.

I also enjoyed spending time with my host family. We talked together, ate meals, and sometimes went out, which made me feel comfortable and happy. I was glad that I could share many moments with them.

I remember going shopping and using simple English and gestures. My English was not good, but I could communicate, and it made me very happy. I learned that trying to speak is very important.

I was also impressed by how people showed their individuality through their clothes and lifestyle. Everyone looked confident and happy being themselves. This experience made me like English more, and I want to improve my English in the future.

Tomoaki Kito

I am truly grateful to have had the opportunity to participate in the Derbyshire High School Student Dispatch Program as a chaperone. It was a privilege to witness the remarkable growth of the students firsthand. I respectfully submit this report on our experiences.

1. Safety Management and Chaperoning Thanks to the meticulous preparation and the tremendous support from Toyota City Hall and all the staff involved, we were able to complete the entire itinerary safely, without any major accidents, troubles, or health issues from departure to return. As a chaperone, I focused on respecting the students' autonomy while maintaining close observation of their health and providing psychological support. In an unfamiliar environment where fatigue can easily set in, I made a conscious effort to communicate with each student to catch any slight changes in their physical condition or anxieties. The students themselves maintained a high level of self-awareness regarding their health and strictly adhered to the schedule. Their discipline and cooperative attitude were key factors in the smooth and safe execution of the program.

2. Interactions with Locals and Host Families During our stay, I was most impressed by the students' proactive attitude and high capabilities, particularly during the "Culture Show" held at the local school. From the preparation stage, the students actively exchanged ideas and practiced independently. On the day of the event, they delivered outstanding presentations with immense confidence in front of a large audience of native speakers. In the interactive sessions where they introduced traditional Japanese games

and calligraphy, the students carefully and thoughtfully explained the activities in English, paying close attention to the reactions of the local students and host families. The host families warmly welcomed our students as members of their own, and through weekend activities and daily conversations, a heartwarming exchange blossomed, fostering a deep mutual understanding of each other's cultures.

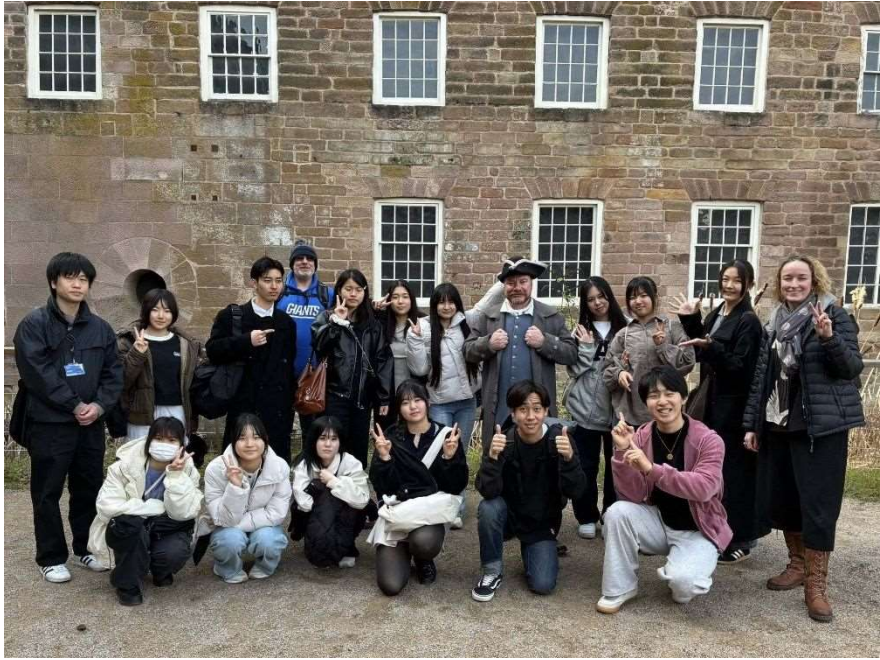
3. Impact on Students' Future Career Paths I am absolutely certain that this experience in Derbyshire has served as a powerful catalyst for broadening the students' future options. The successful experience of overcoming language and cultural barriers to convey their thoughts has given the students immeasurable confidence. Their dignified behavior during the Culture Show and their willingness to actively engage in communication will dramatically increase their motivation for future English studies. Furthermore, exposure to diverse values has inspired some students to consider studying abroad or pursuing careers on a global stage. I strongly feel that this program has been a highly meaningful first step in shaping their future career paths.

Finally, I would like to express my deepest gratitude to everyone who made this wonderful program possible.

ダービーシャー高校生派遣事業資料

ダービーシャー高校生派遣事業

回	年 度	学 生		計
		男	女	
1	平成 26 年 (2014 年) 度	4	1 2	1 6
2	平成 27 年 (2015 年) 度	3	1 3	1 6
3	平成 28 年 (2016 年) 度	4	1 2	1 6
4	平成 29 年 (2017 年) 度	5	1 0	1 5
5	平成 30 年 (2018 年) 度	2	1 3	1 5
(6)	平成 31 年 (2019 年) 度	(8)	(8)	(1 6)
		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止 (事前研修等の準備は実施したが、出発前に派遣中止を判断)		
-	令和 2 年 (2020 年) 度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止		
-	令和 3 年 (2021 年) 度	4	1 1	1 5
		派遣代替事業として BSDC の学生を含む英国在住者とのオンライン交流事業を実施		
6	令和 4 年 (2022 年) 度	6	1 0	1 6
7	令和 5 年 (2023 年) 度	5	1 0	1 5
8	令和 6 年 (2024 年) 度	2	1 0	1 2
9	令和 7 年 (2025 年) 度	3	1 1	1 4
計 (平成 31 年度含む)		4 6	1 2 0	1 6 6



Golden Days Abroad in Derbyshire
姉妹都市ダービーシャーを訪ねて 2026

第9回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書

編集・発行：豊田市 地域活躍部 多様性社会共創課

〒471-0034 豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター2 階

TEL0565-34-6963 e-mail: kokusai@city.toyota.aichi.jp